

時事経済情報 No. 98

2023年6月26日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

6月21日に講談社より拙著を上梓しました



これは長年、世界経済の真実を
追いかけてきた著者が到達した
日本の未来を照らす希望の書だ!

—— 丹羽宇一郎氏

講談社 新書

ディープな一次情報を知る男が
ヒト・モノ・カネの動きから読み解く

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米国經濟

1. FOMC利上げ見送るも年内2回の利上げ示唆

①6月13～14日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) はFF金利の利上げを見送り、レンジを5.0～5.25%に据え置いた。

②レンジ据え置きにより、当面は追加情報と金融政策への影響評価が主になる。

③追加的な引き締め度合いは引き締めの累積効果、景気やインフレへのラグ、経済金融の動きを考慮して決まる、としている。要するに一度様子見の時間をおくが、利上げ打ち止めではない。

③FOMCメンバーの2023年末のFF金利予想は5.6%と3月時点の予想5.1%を0.5%上回る。これは年末までに0.25%の利上げを2回実施するに相当する。

④パウエル議長はFOMC終了後の記者会見で「ほとんどのメンバーが年内の追加利上げが必要だと考えている」、「(年内の)利下げは全く適切でない」と発言している。

⑤パウエル議長は6月21日の議会証言で「この1年でゼロ金利から5～5.25%に引き上げたので、利上げ見送りはprudentである」、「引き締めの効果が出尽くしたと実感できるには時間がかかる」、「シリコンバレー銀行等の破綻による信用収縮は経済にとって逆風となり得る」、「インフレ圧力は根強く、2%に戻るには道のりは遠い。FOMCメンバーの2回利上げのシグナルはかなり良い予想だ」と述べている。



2. 米GDP1～3月期は在庫投資が足を引っ張り減速

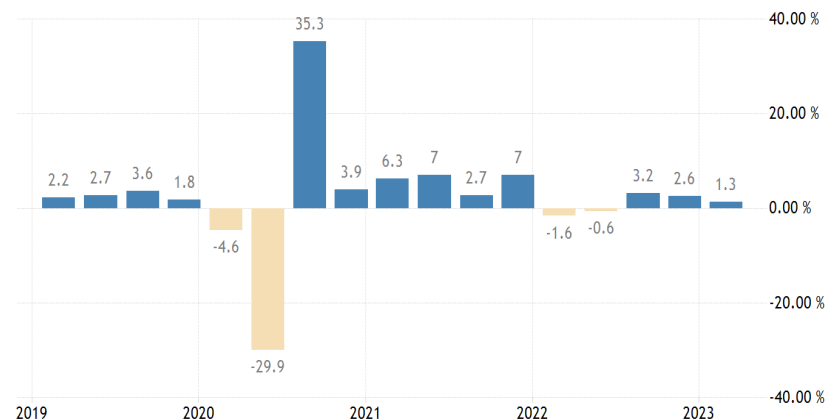
①1～3月期の実質GDP(二次推計) 前期比は+1.3%(前期比年率、右上図)と減速したが、3四半期連続のプラス。前年比は+1.6%(右下図)。

②1～3月期の内需の寄与度は+1.27%、外需の寄与度は+0.0%。内需は消費が寄与度+2.52%と好調だったが、在庫投資の寄与度が▲2.1%と足を引っ張った。

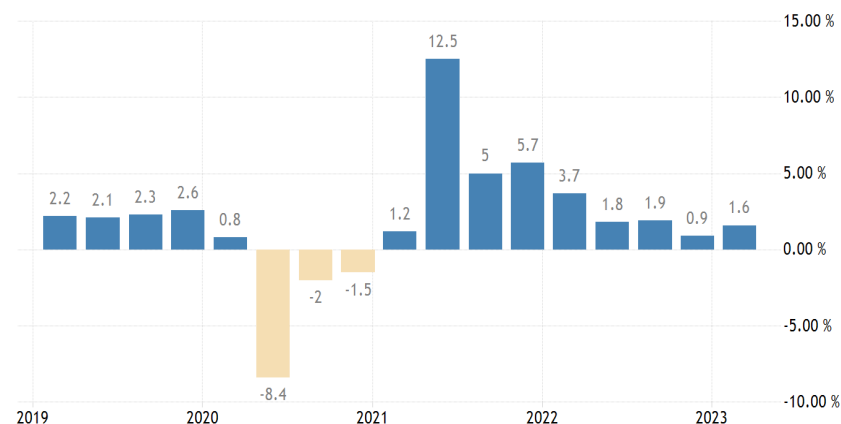
③個人消費の伸びは+3.8%(モノ+6.3%、サービス+2.5%)。設備投資は+1.4%で寄与度は+0.18%。住宅投資の伸びは▲5.4%、政府支出の伸びは+5.2%(連邦+7.6%、地方+3.8%)で寄与度は+0.89%

④輸出の伸びは+5.2%、輸入は+4.0%。

⑤名目GDPの伸びは+5.4%、GDP物価指数は+4.2%。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS

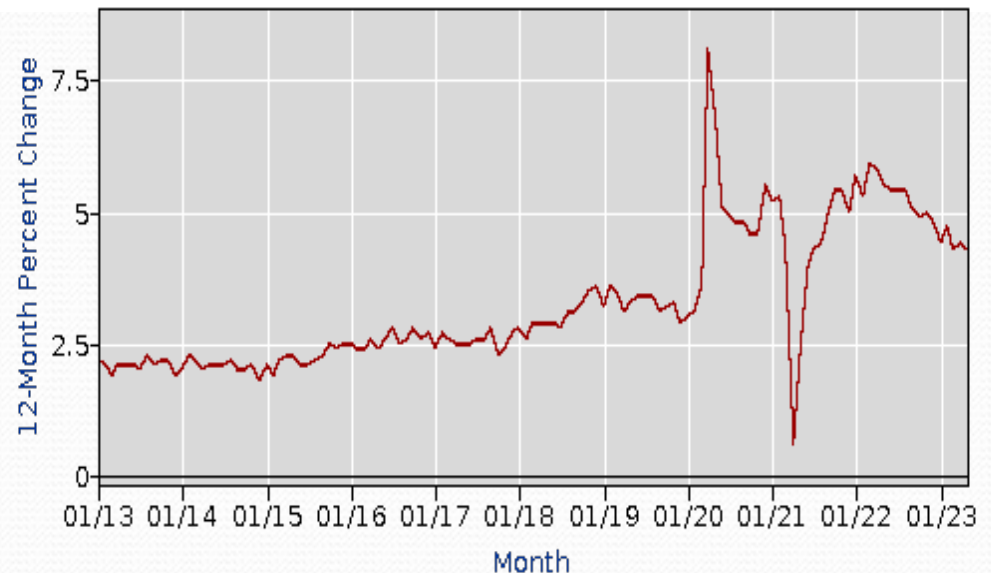
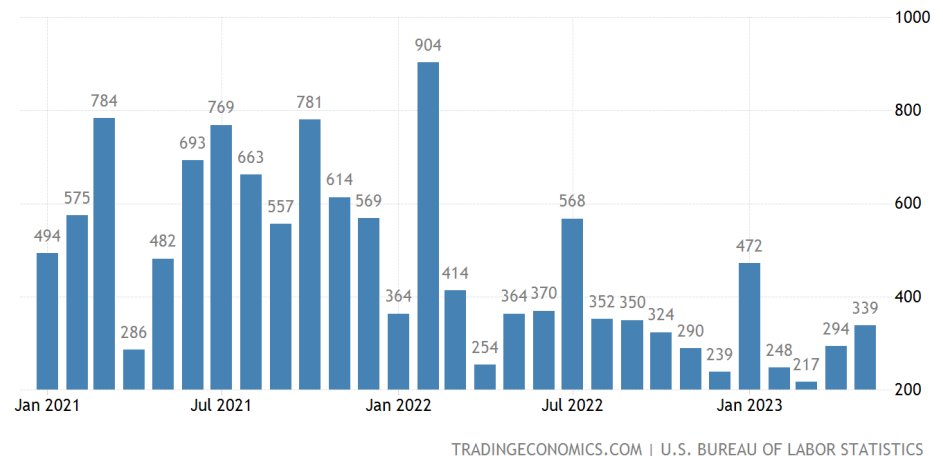
3. 米雇用者数は安定した伸びが続く

①5月の雇用者数の前月比(右上図)は+33.9万人の増加で事前予想の+19万人を大きく上回った。

②雇用増加は業種別では専門職・ビジネスサービ+6.4万人、政府+5.6万人、ヘルスケア+5.24万人、建設+2.5万人、運送・倉庫+2.42万人、社会支援+2.22万人。

③失業率は3.7%と前月比+0.3ポイントの上昇。労働参加率は62.6%と前月と変わらず。

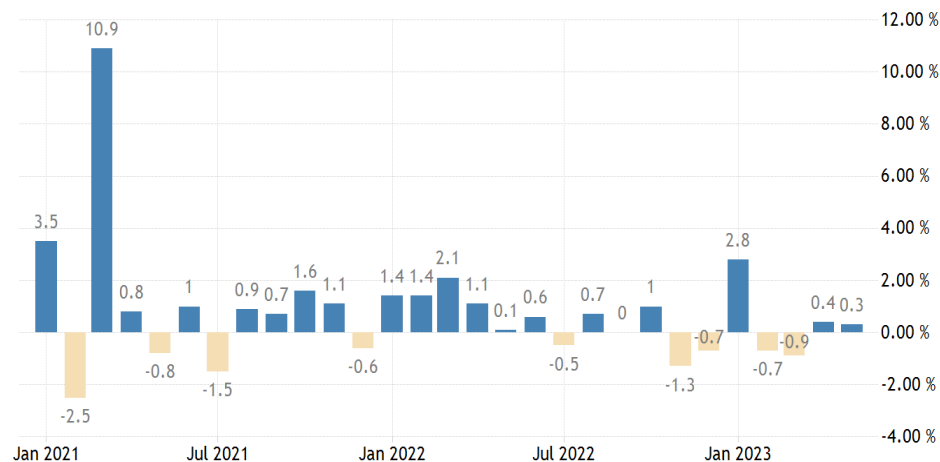
④時間当たり賃金は前月比+11セント上昇して33.44ドルに、前年比(右下図)は+4.3%と前月比▲0.1ポイントの低下。



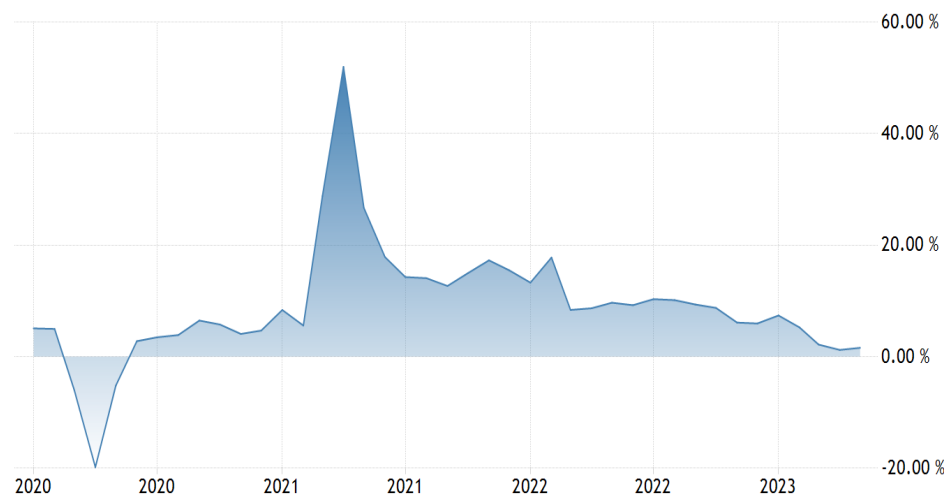
4. 米小売売上高は消費者心理の悪化で弱い

①5月の小売売上高の前月比(右上図)
+0.3%、前年比(右下図)は+1.6%と弱い。
実質では更にマイナス。インフレ
と消費者心理の悪化が影響している。

②業種	前月比	前年比
自動車	+1.4%	+4.4%
家具	+0.4%	▲6.4%
電気製品	+0.2%	▲5.0%
建設資材園芸用品	+2.2%	▲0.9%
食料品店	+0.3%	+3.1%
健康ケア	+0.9%	+7.9%
ガソリンスタンド	▲2.6%	▲20.5%
衣服アクセサリ	0.0%	▲0.2%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	+0.3%	+1.2%
総合スーパー	+0.4%	+2.0%
無店舗販売	+0.3%	+6.5%
飲食業	+0.4%	+8.0%
合計	+0.3%	+1.6%



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

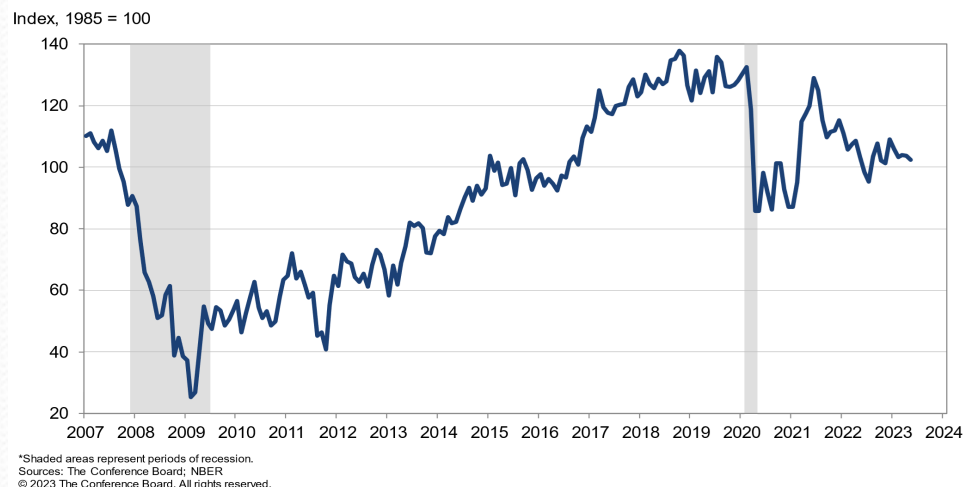
5. 米消費者信頼感指数はリスク低減で上昇

①6月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、63.9で前月比+4.7ポイントの上昇。現状指数は64.9から68.0に上昇、期待指数は55.4から61.3に上昇。インフレ鈍化、債務上限問題解決を好感しての動き。

②5月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は102.3で前月比▲1.4ポイントの低下。現状指数は4月151.8→5月148.6に低下。期待指数は4月71.7→5月71.5に低下、引き続き1年以内の景気後退到来を示唆する80以下に留まっている。



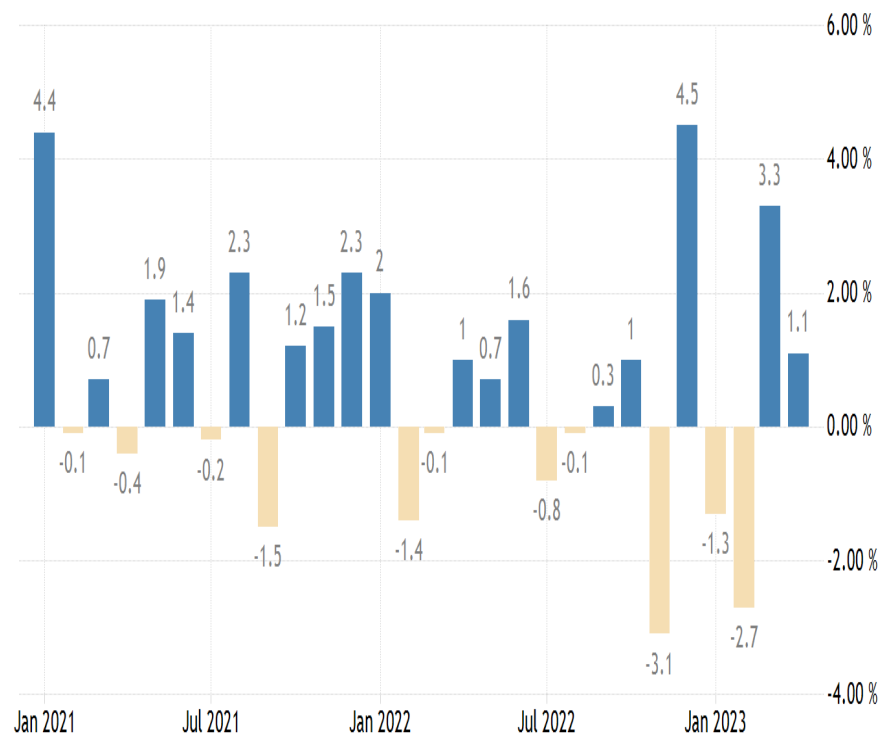
Consumer Confidence Index®



6. 米耐久財新規受注は緩やかな伸び

①4月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)+1.1%、前年比は+2.9%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比▲0.2%、前年比▲2.0%、国防を除く耐久財新規受注は前月比▲0.6%、前年比▲0.5%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+1.4%、前年比+1.1%。

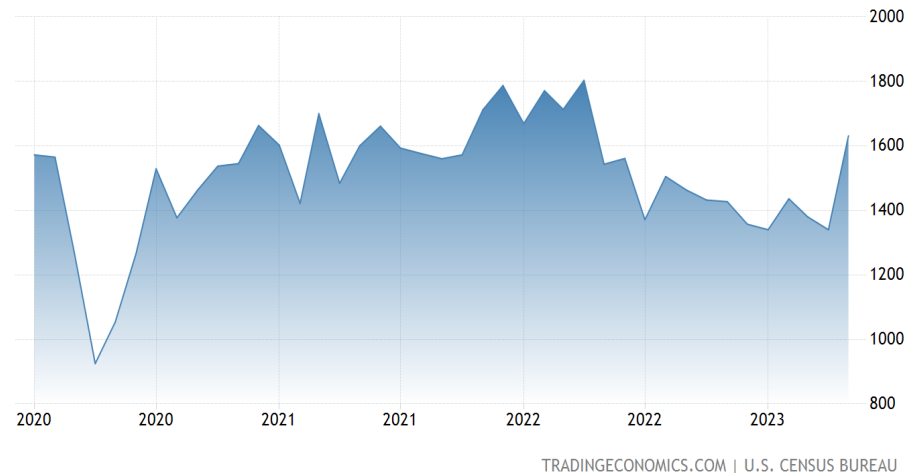


7. 米住宅着工は金利高止まりでもリバウンド

①5月の米住宅着工戸数は年率163.1万戸(右上図)、前月比は+21.7%、前年比は+5.7%とリバウンド。但し、住宅ローン金利は7%近辺で高止まり(右下図)。一戸建は前月比+18.5%、前年比は▲6.6%、集合住宅(5件以上)は前月比+28.1%、前年比+39.6%。地域別前月比、前年比北東部▲18.7%、▲21.9%、中西部+66.9%、+24.2%、南部+20.3%、+6.7%、西部+16.4%、+1.2%。

②3月のケースシラー住宅価格指数(20都市)は前月比+1.5%、前年比▲1.1%。

③4月の新築住宅販売戸数は年率68.3万戸、前月比+4.1%、前年比+11.8%。地域別前月比、前年比は北東部▲58.6%、▲46.7%、中西部+11.8%、+20.6%、南部+17.8%、+23.4%、西部▲9.1%、▲2.8%。販売在庫比率は7.6ヶ月と前月より▲0.3ヶ月低下。



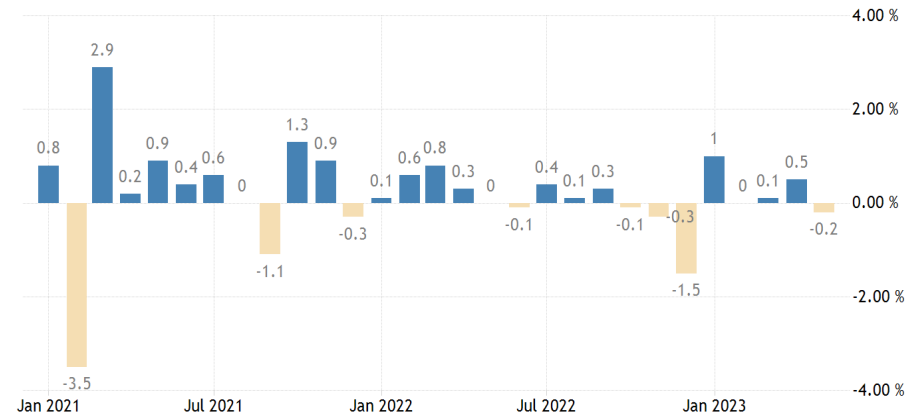
8. 米鉱工業生産の前年比は低い伸びが続く

①5月の米鉱工業生産指数は前月比▲0.2%（右上図）。前年比は+0.2%（右下図）。

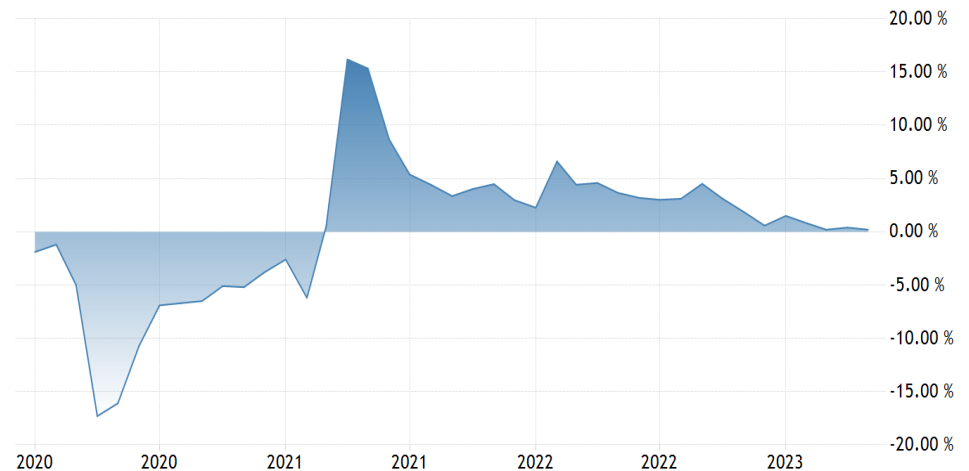
②鉱業の前月比は▲0.4%、前年比は+5.0%、公益事業の前月比は▲1.8%、前年比▲3.8%。

③製造業の前月比は+0.1%、前年比は▲0.3%。うち自動車及び部品はそれぞれ+0.2%、+10.0%、コンピュータ・電子機器は▲0.8%、▲1.5%、航空機は+2.5%、+1.5%、金属製品+0.7%、▲0.1%、食料・飲料・タバコ▲0.4%、▲0.5%、化学は▲0.2%、+1.1%。

④設備稼働率指数（製造業）は78.4と前月と変わらず。長期平均78.2を+0.2ポイント上回る。



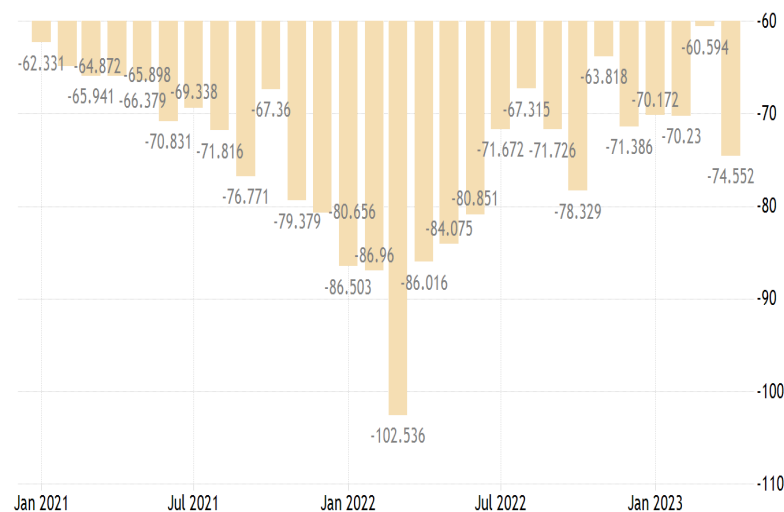
TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE



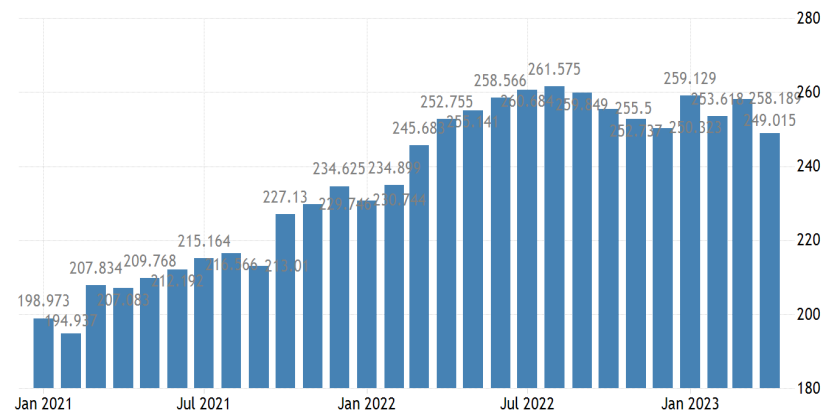
TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE

9. 米貿易赤字は輸出減、輸入増で悪化

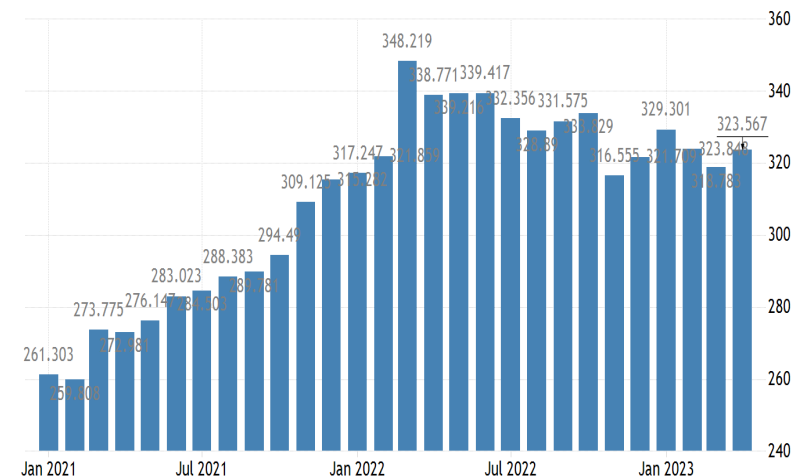
- ①4月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は前月比▲140億ドル悪化して▲746億ドルの赤字に拡大。
- ②財・サービス輸出(右上図)は前月比▲92億ドル減少の2,490億ドル(前年比▲1.5%)。前月比で工業用原材料▲61億ドル、消費財▲17億ドル。
- ③財・サービス輸入(右下図)は前月比+48億ドル増加の3,236億ドル(前年比▲4.5%)。前月比で自動車・部品+20億ドル、工業用原材料+19億ドル。
- ④対中輸出は127.94億ドルで前年比+12.8%、対中輸入は307.90億ドルで前年比▲20.8%。



TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

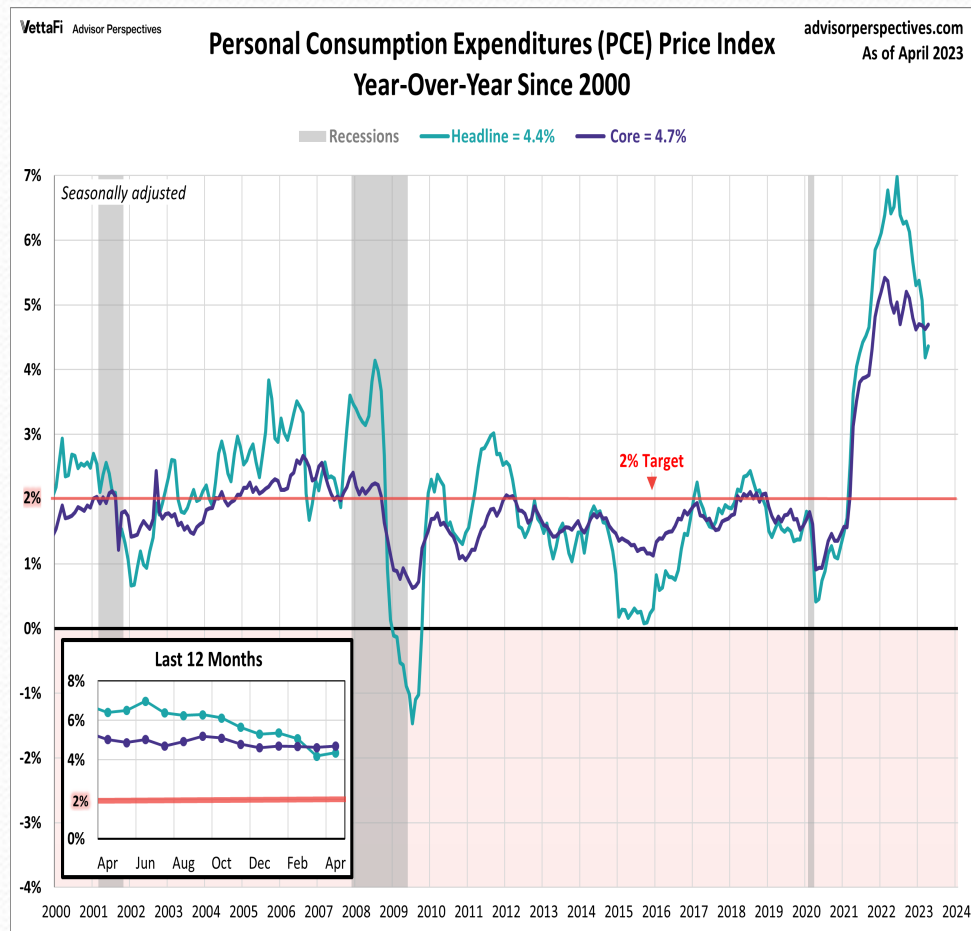
10. 米コアPCEは財サービス共に高止まり

①4月のPCE（個人消費支出）総合物価指数の前年比（右図緑線）は+4.4%と前月より+0.2ポイント上昇。前月比は+0.4%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比（右図青線）は+4.7%と前月より+0.1ポイント上昇。依然としてFedの物価目標2%を大きく上回る。前月比は+0.4%

③財価格の前年比+2.1%、前月比は+0.3%、サービス価格の前年比は+5.5%と前月と変わらず、前月比は+0.4%。エネルギー価格の前年比は▲6.3%、前月比は+0.7%。

④期待インフレ率指標（BEI）は6月22日時点で10年物2.24%、5年物は2.18%、5月以降、順イールドに戻す。



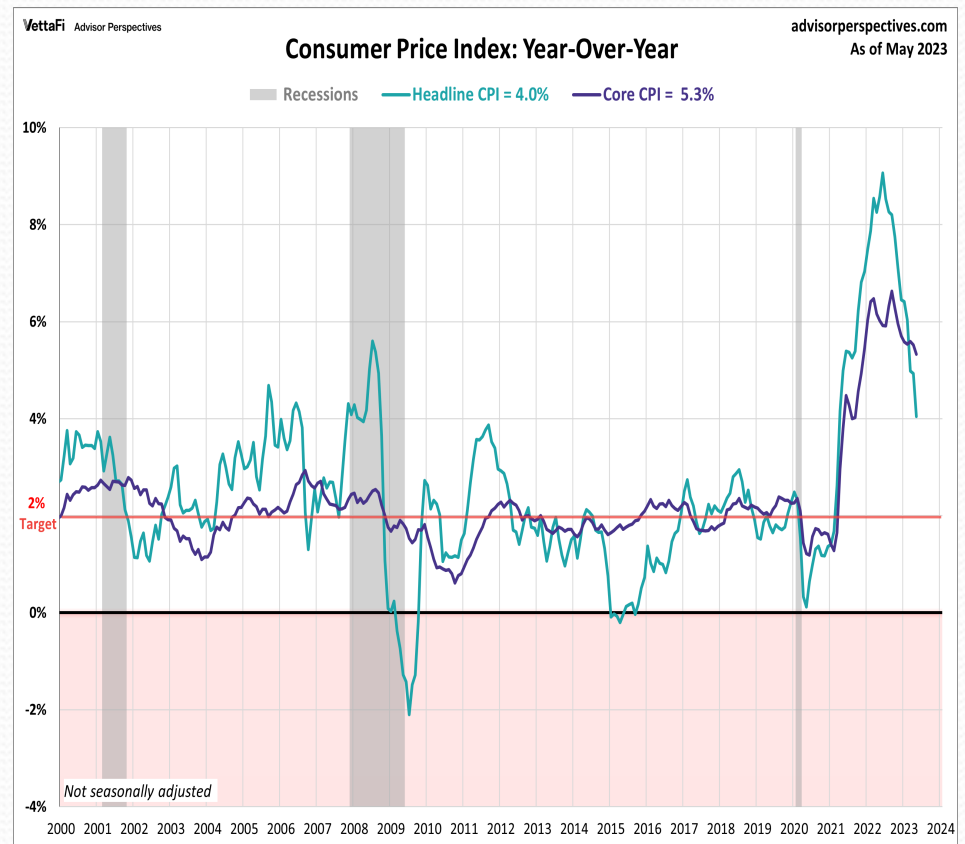
11. 米消費者物価はコア指数が5%台と高止まり

①5月のCPI（消費者物価指数）総合の前年比（右図緑線）は+4.0%と前月より▲0.9ポイント伸びが低下した。前月比は+0.1%に減速。

②エネルギーの前年比は▲11.7%（うちガソリン▲19.7%、燃料油▲37.0%、電気+5.9%、都市ガス▲11.0%）、前月比は▲3.6%（うちガソリンは▲5.6%、燃料油は▲7.7%、電気▲1.0%、都市ガス▲2.6%）。

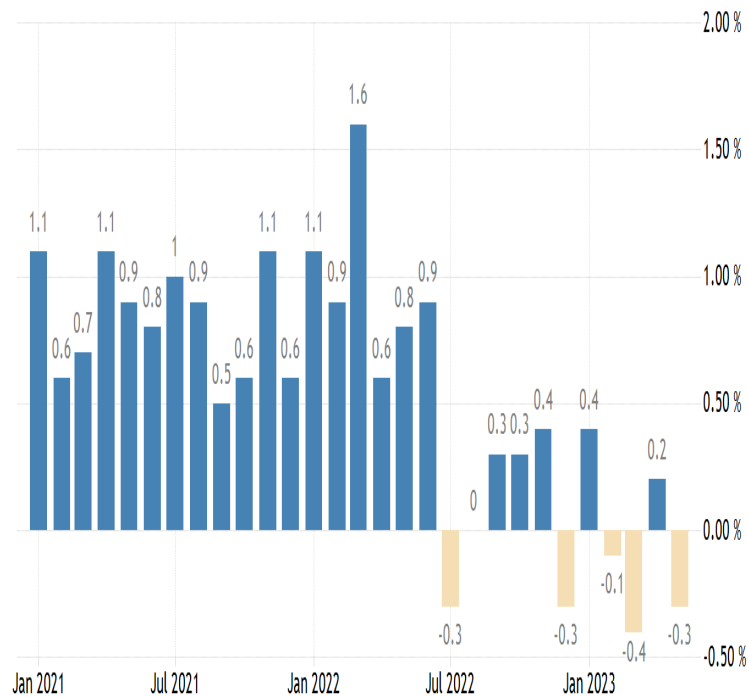
③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比（右図青線）は+5.3%と前月より▲0.2ポイント伸びが低下。前月比は+0.4%と伸びが変わらず。

④サービス価格（除くエネルギーサービス）の前年比は+6.6%、前月比は+0.4%とサービ主導のインフレとなっている。

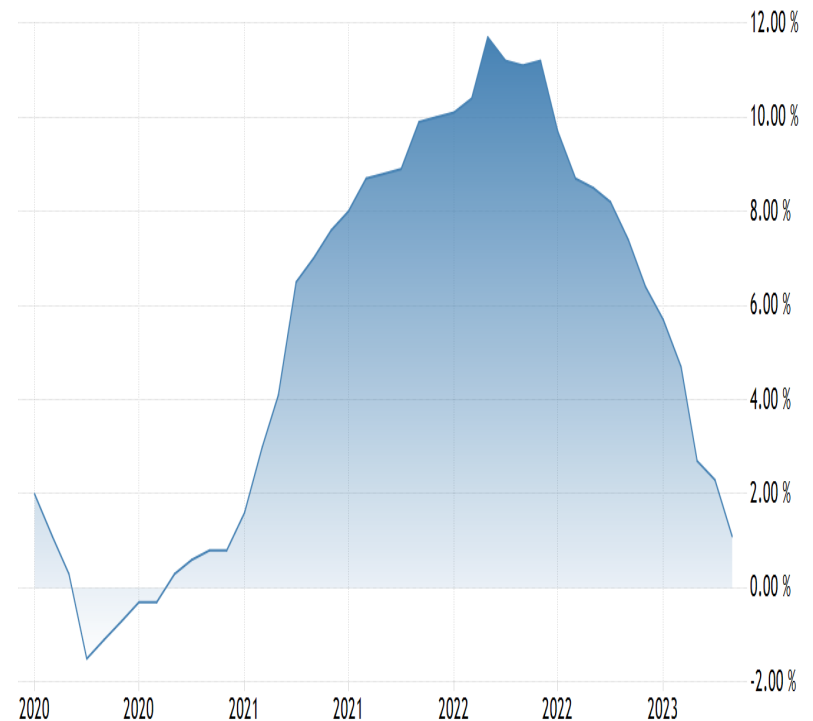


12. 米生産者物価の伸びは減速傾向続く

4月のPPI（生産者物価指数）総合の前月比（左下図）は▲0.3%。前年比（右下図）は+1.1%と前月より▲1.2ポイント伸びが低下した。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

13. 米製造業PMI指数は50を割る

①米サプライマネジメント協会 (ISM)
の5月製造業PMI指数(右図濃青線)は
46.9と前月比▲0.2ポイントの低下。
項目別前月比では

新規受注▲3.1ポイント

生産+2.2

雇用+1.2

供給者納入▲1.1

在庫▲0.5

顧客在庫+0.1

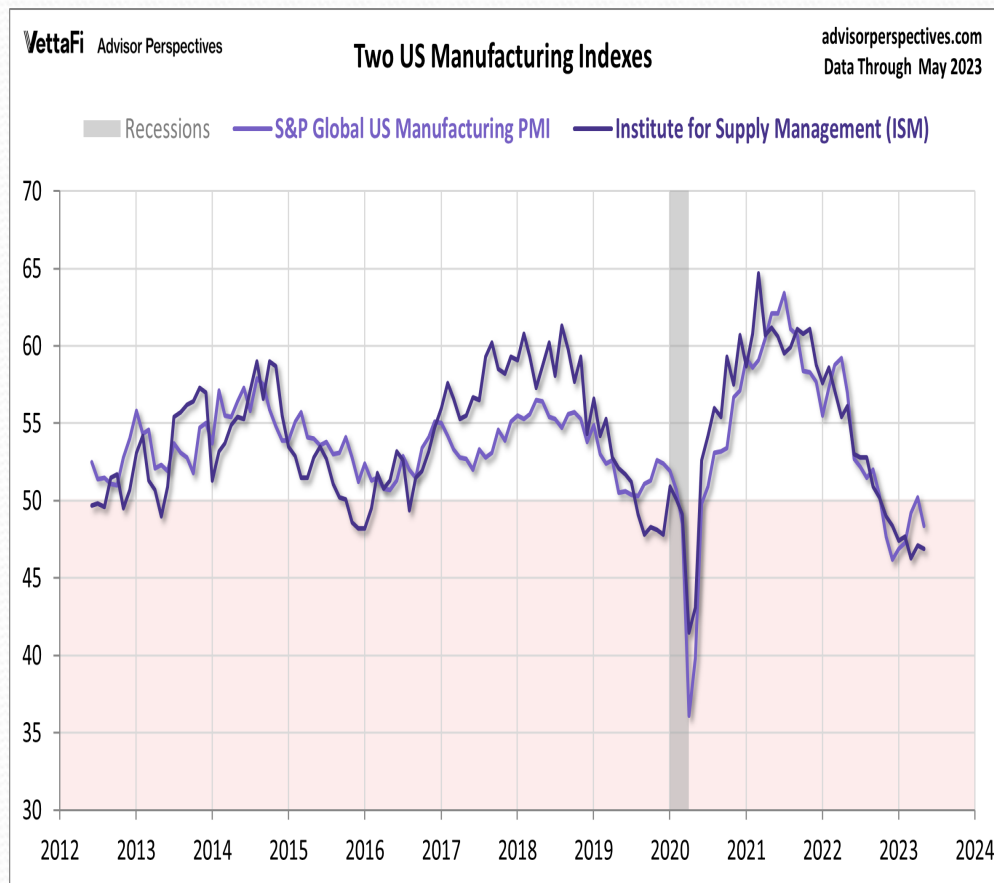
価格▲9.0

受注残▲5.6

新規輸出受注+0.2

輸入▲2.6

②5月S&P製造業PMI指数(右図薄青線)
は48.4と前月比▲1.8ポイント低下。





II 欧州經濟

1. ECBは0.25%利上げ、次回7月の利上げも示唆

①6月15日ECB理事会は政策金利を0.25%引き上げ、預金ファシリティ金利は3.5%、主要レポ金利4.0%、限界貸出ファシリティ金利は4.25%となった。利上げは8回連続。ラガルド総裁は利上げ停止は検討しておらず、7月理事会での利上げの継続を示唆した。

②声明文は「インフレは伸びが低下しているが、(目標を上回る)高い伸びが(容認できないくらい)長続きすると見込まれる」と警戒感を崩していない。

③ECBスタッフ予想ではインフレ率は23年平均5.4%、24年3.0%、25年2.2%。

④今後の政策金利は2%インフレ目標に早期に復帰して安定するに見合う引き締め水準まで引き上げられる、と利上げ継続を示唆している。

⑤証券保有について、資産購入プログラム(APP)に基づいて購入し、満期が来た証券の元本再投資は7月時点で停止するとしている。

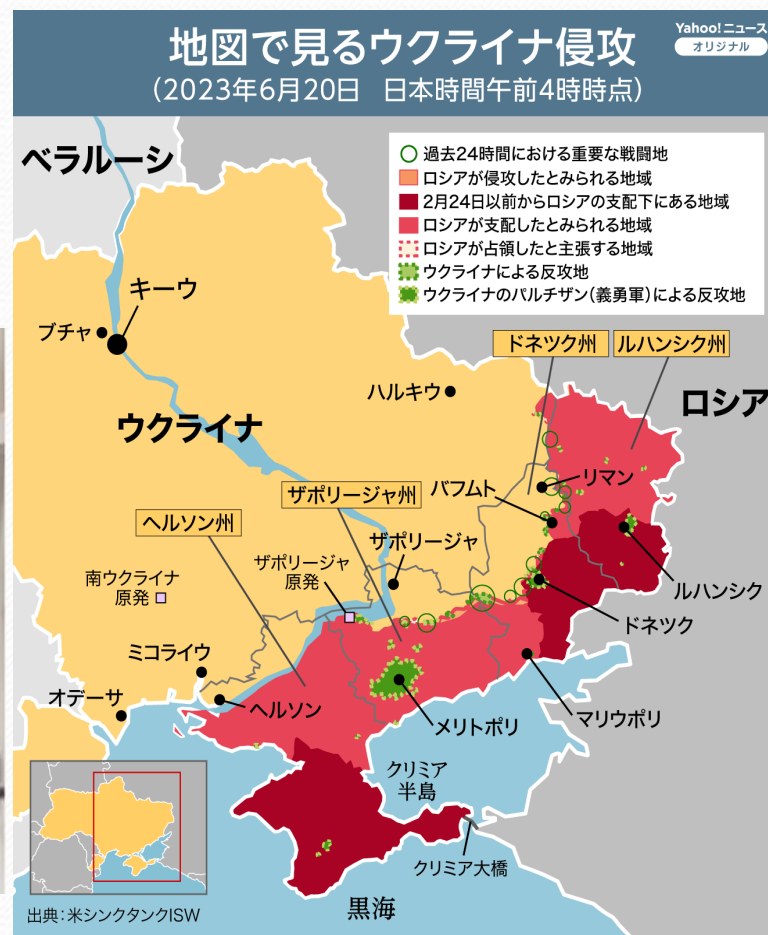
⑥終了したPandemic Emergency Purchase Programme (PEPP)は満期が来たものは少なくとも2024年末まで元本を再投資する。

⑦民間銀行はTLTRO-III(金融政策の伝達経路を改善することを目的とした長期資金供給オペ)で借り入れた資金を返済中で、ECB理事会はTLTROとその返済が金融政策にどう貢献しているのかを定期的に評価する、としている。



2. ワグネルのプリゴジン反乱でロシア混乱

ロシア正規軍と揉めていたロシア民間軍事組織ワグネルのプリゴジン(左下写真)は6月24日に反乱を起こし、モスクワに迫ったが、ベラルーシのルカシェンコ大統領の説得により断念して、ベラルーシに移動したと報道されている。



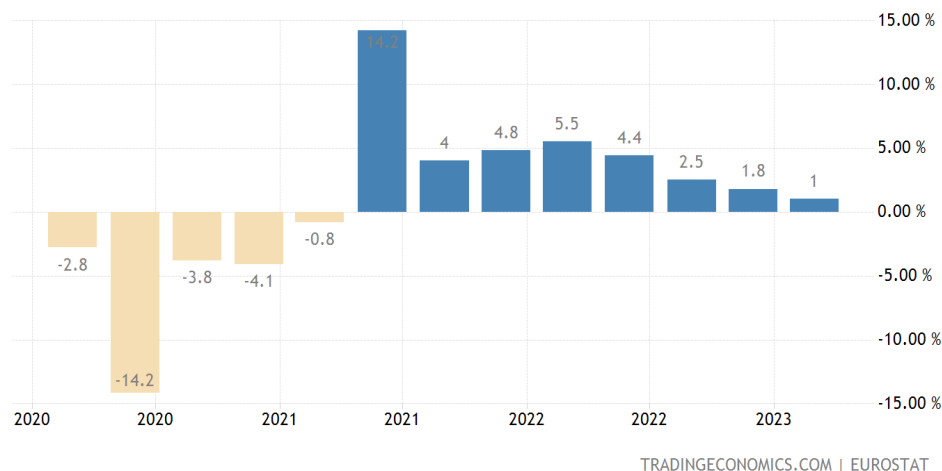
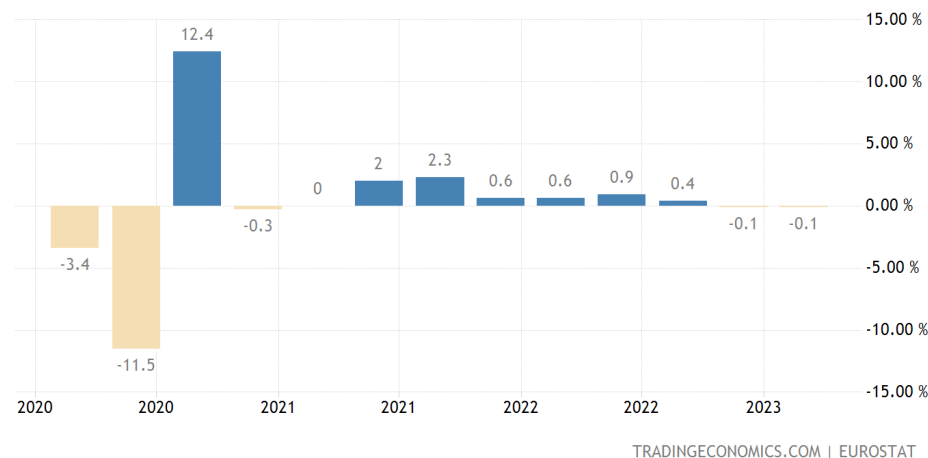
3. 1～3月期のユーロ圏のGDPは減速傾向続く

①1～3月期のユーロ圏GDP(確報)は前期比(右上図)▲0.1%と2期連続のマイナス成長で定義によればリセッション。前年比(右下図)は+1.0%。

②前期比で独▲0.3%、仏+0.2%、伊+0.6%、スペイン+0.5%、ポルトガル+1.6%、オーストリア+0.1%、ベルギー+0.5%。

③前年比で独▲0.5%、仏+0.9%、伊+1.9%、スペイン+3.8%、ポルトガル+2.5%、オーストリア+1.8%、ベルギー+1.4%。

④BREXITした英国は前期比+0.1%、前年比+0.2%。

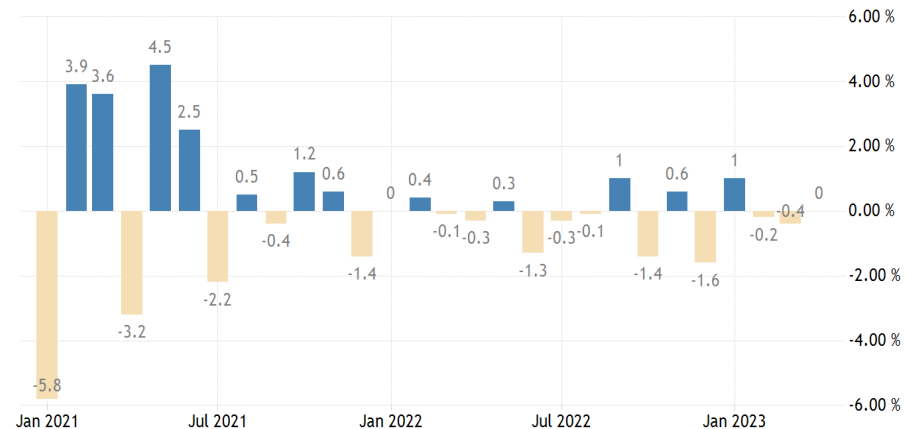


4. ユーロ圏小売売上高(数量)は不振が続く

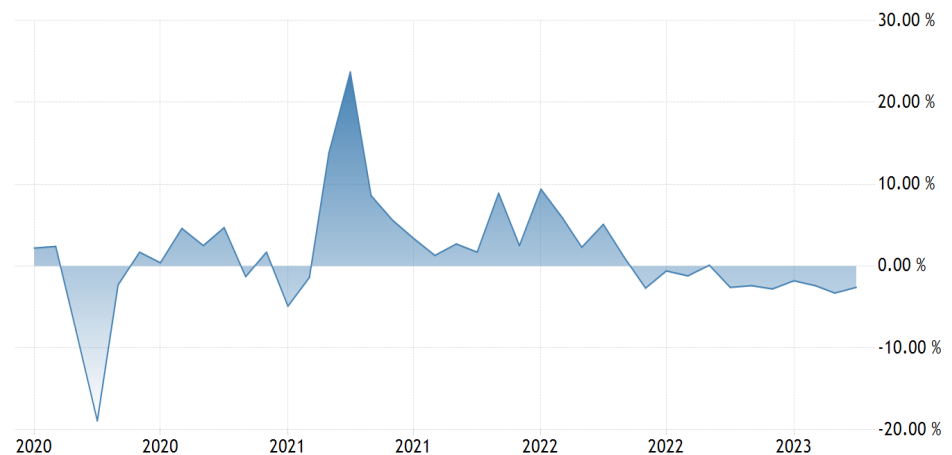
①4月のユーロ圏小売売上高(数量ベース、季調済)は前月比横ばい(右上図)、前年比(右下図)は▲2.6%と不振。インフレと金利上昇が消費を抑制。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲0.5%、非食料製品+0.5%(うち通信販売・インターネット+2.7%)、自動車燃料▲2.3%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲4.4%、非食料製品▲1.1%(うち通信販売・インターネット▲3.9%)、自動車燃料▲1.8%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



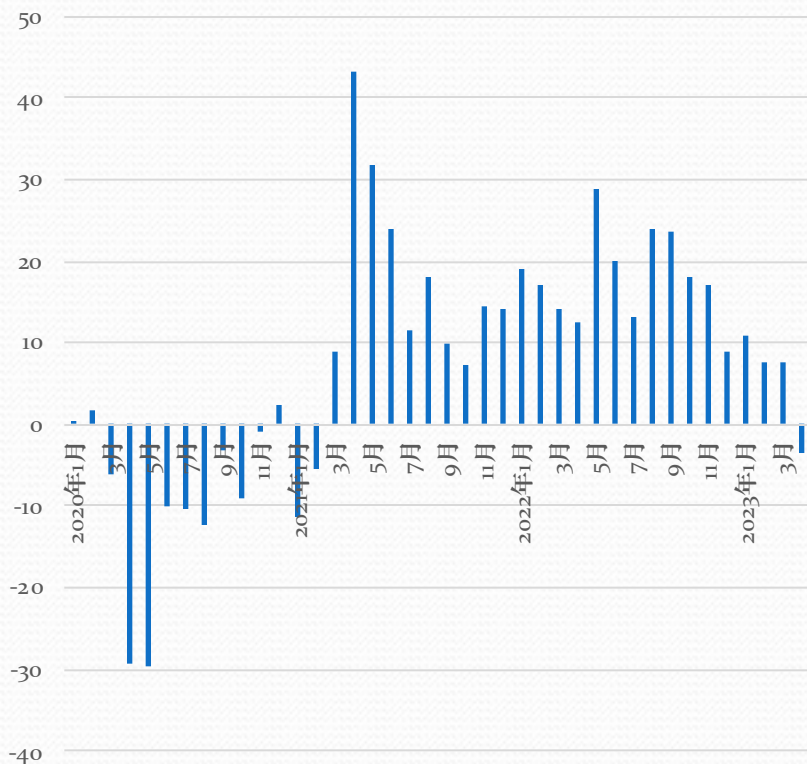
TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

5. ユーロ圏の輸出、輸入共に前年比が急減

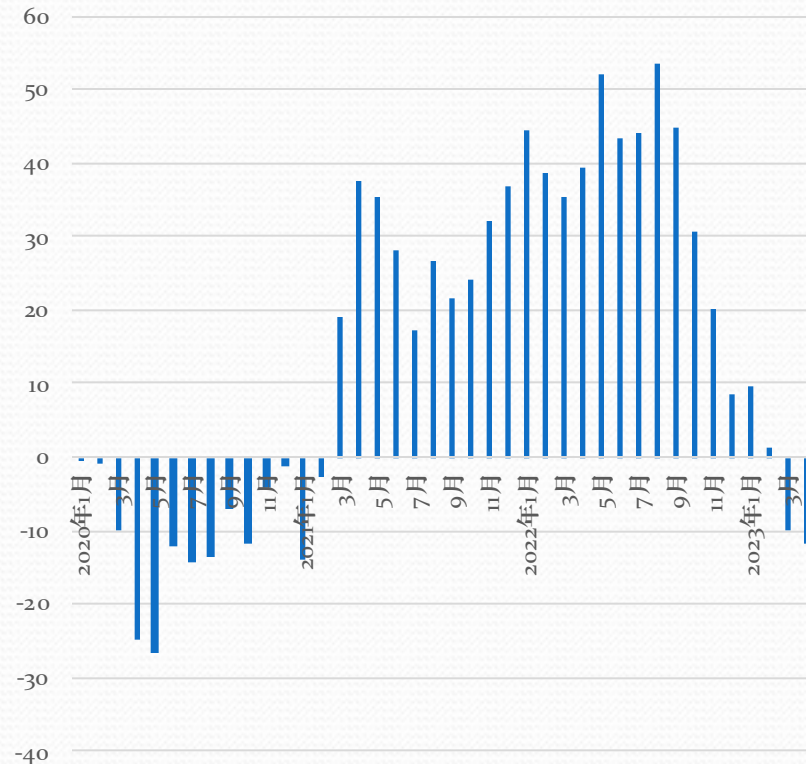
①4月の輸出の伸びは21年2月以来の2年ぶりに前年比▲3.6%のマイナス

②4月の輸入の伸びは前年比▲11.9%

ユーロ圏の輸出の推移(前年比、%)



ユーロ圏の輸入の推移(前年比、%)



6. ユーロ圏鉱工業生産は一進一退が続く

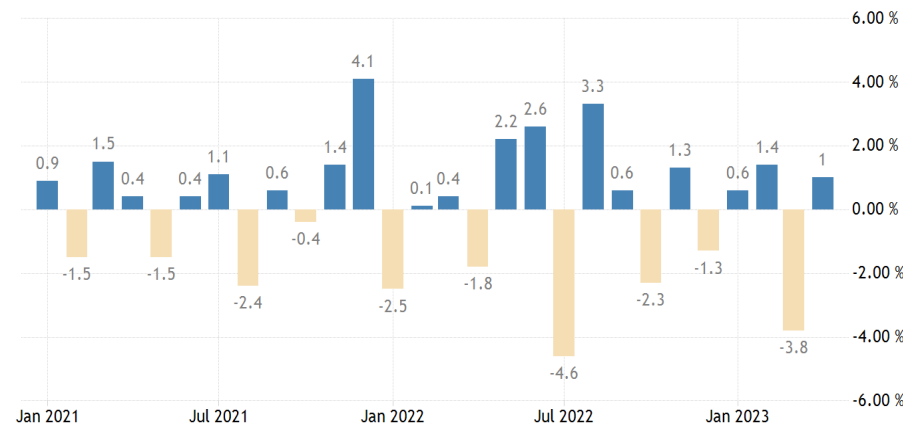
①4月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)+1.0%、前年比(右下図)は+0.2%。

②項目別の前月比は中間財▲1.0%、エネルギー+1.0%、資本財+14.7%、耐久消費財▲2.6%、非耐久消費財▲3.0%。

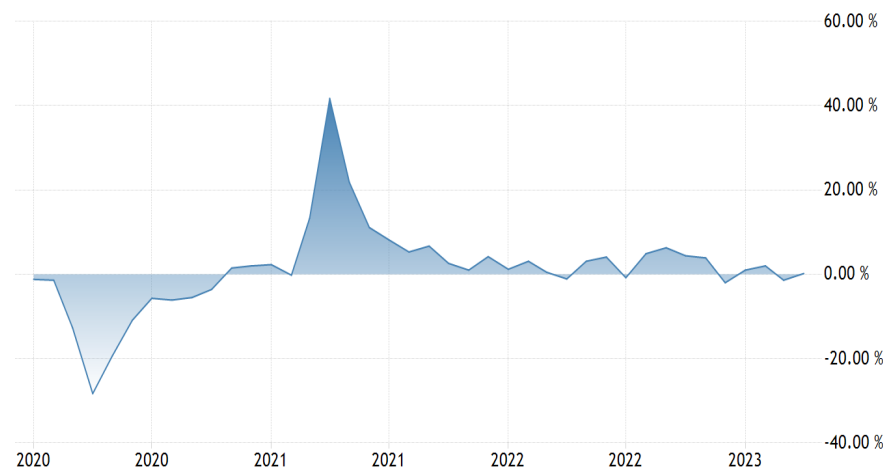
③前年比では中間財▲6.2%、エネルギー▲7.4%、資本財+8.3%、耐久消費財▲4.6%、非耐久消費財+0.6%。

④国別の前月比ではドイツ0.0%、仏+0.8%、スペイン▲1.8%、ポルトガル▲5.5%、オランダ▲3.5%、デンマーク+0.8%、オーストリア+1.3%。アイルランド+21.5%。

⑤前年比ではドイツ+1.3%、仏+1.4%、スペイン▲2.1%、ポルトガル▲6.7%、オランダ▲12.8%、デンマーク+12.2%、オーストリア+1.8%、アイルランド+22.5%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

7. ユーロ圏の失業率は下げ止まりの兆し

①4月のユーロ圏失業率(右図)は6.5%と前月比▲0.1ポイント低下、前年同月より▲0.2ポイント低下したが、前月の伸びを上回る国も出てきており、ボトムに近い。

②最低はチェコの2.7%、最高はスペインの12.7%。

③前年4月との比較では独3.0%→2.9%、仏7.5%→7.0%、伊8.2%→7.8%、スペイン12.9%→12.7%、アイルランド4.6%→3.9%に低下。

一方、オランダ3.2%→3.4%、デンマーク4.0%→4.9%、オーストリア4.4%→5.1%、ポルトガル5.9%→6.8%に上昇。

④英国の失業率は3.8%で前月比▲0.1ポイント低下(英国統計局)。

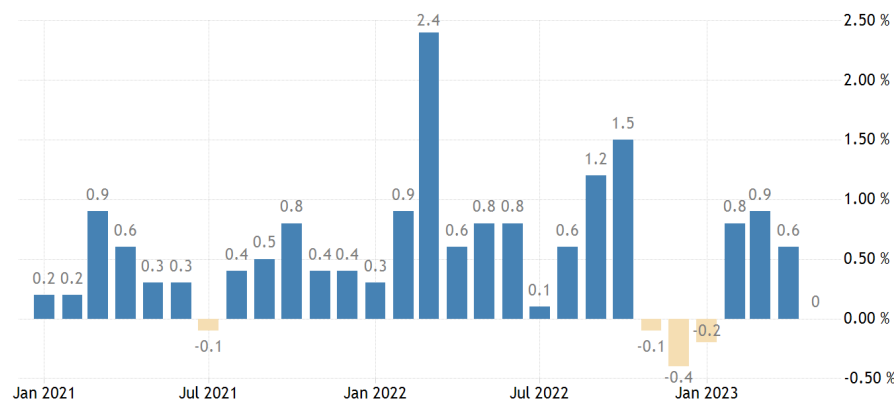


8. ユーロ圏のインフレは食品価格が主導

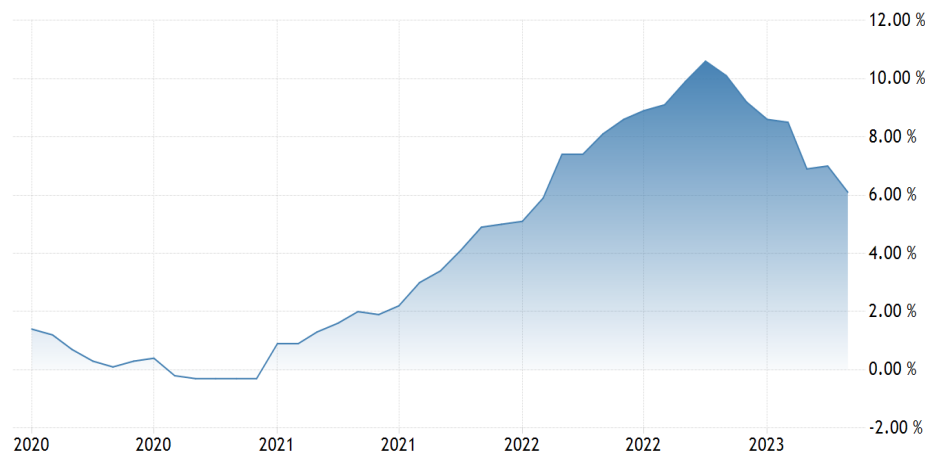
①5月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は前月の伸びから▲0.9ポイント低下し+6.1%、前月比は0.0%(右上図)

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+5.3%と前月より▲0.3ポイント伸びが低下。前月比+0.2%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは3月+15.5%→4月+13.5%→5月+12.5%。エネルギーは▲0.9%→+2.4% →▲1.7%。非エネルギー工業製品は+6.6%→+6.2% →+5.8%。サービスは+5.1%→+5.2% →+5.0%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

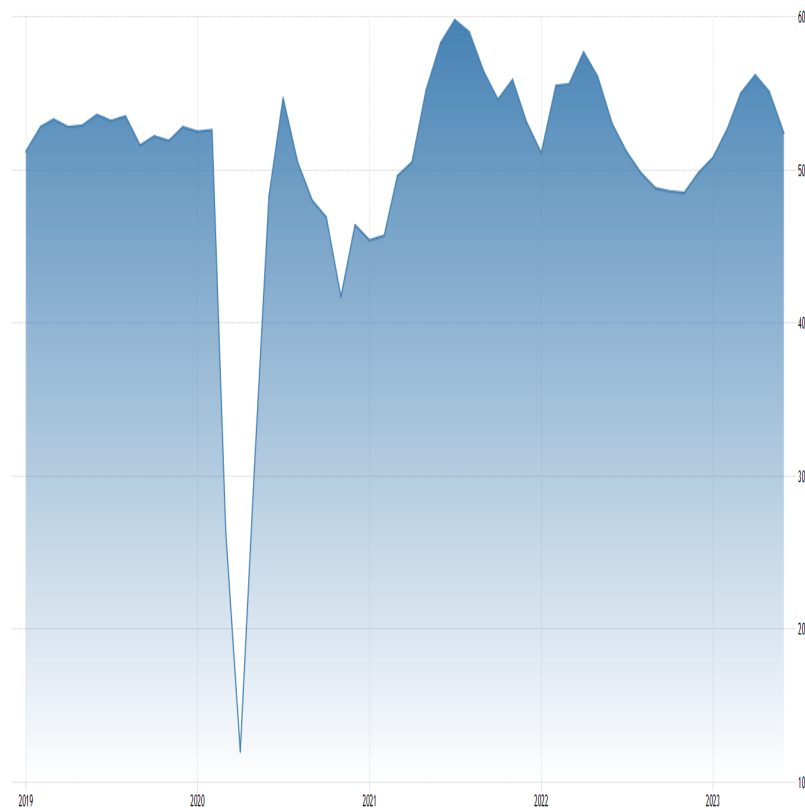
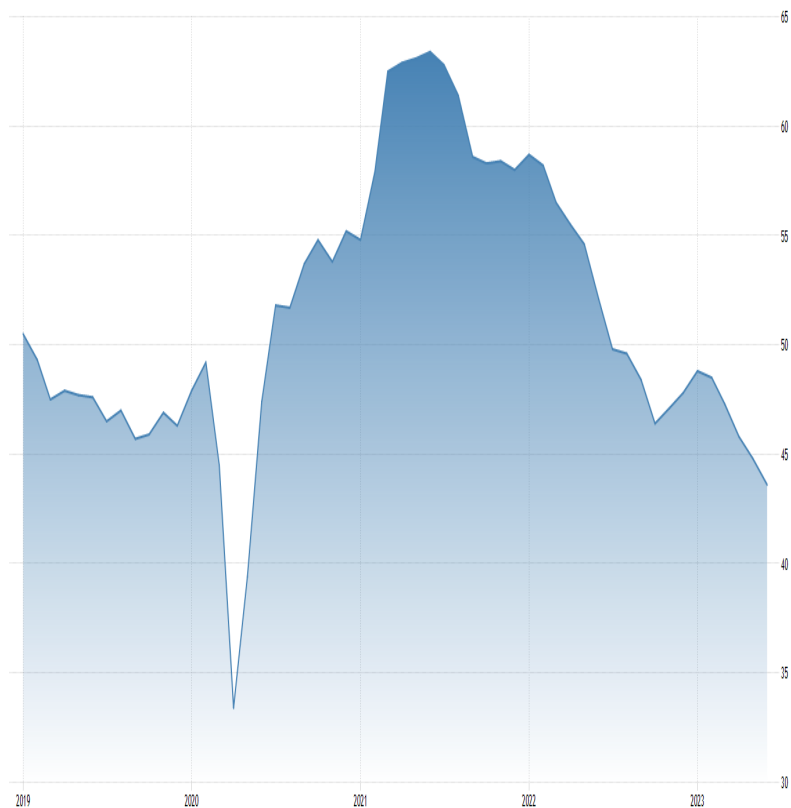


TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

9. ユーロ圏製造業PMIの低下傾向続く

①製造業PMIは5月44.8→6月43.6

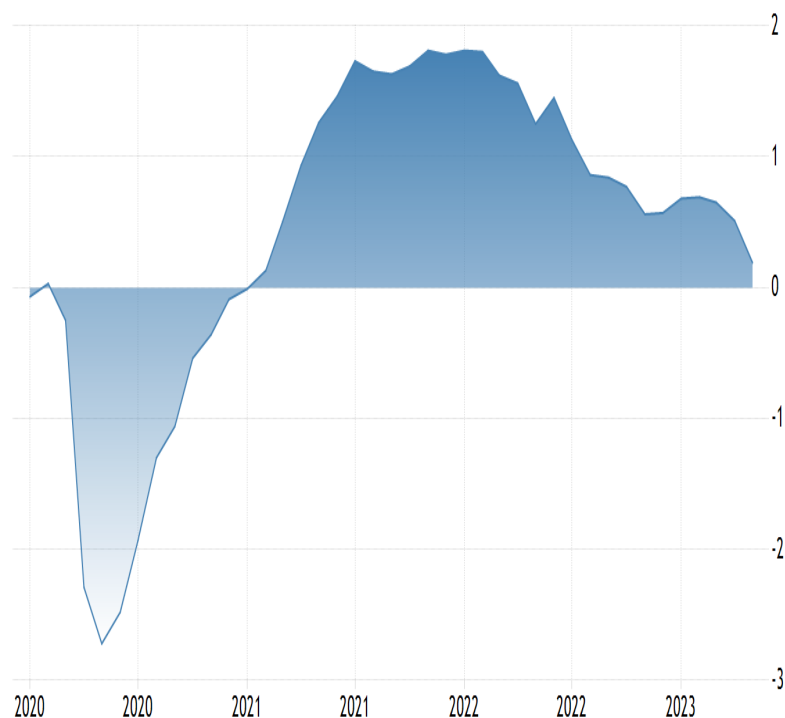
②サービス業PMIは5月55.1→6月52.4



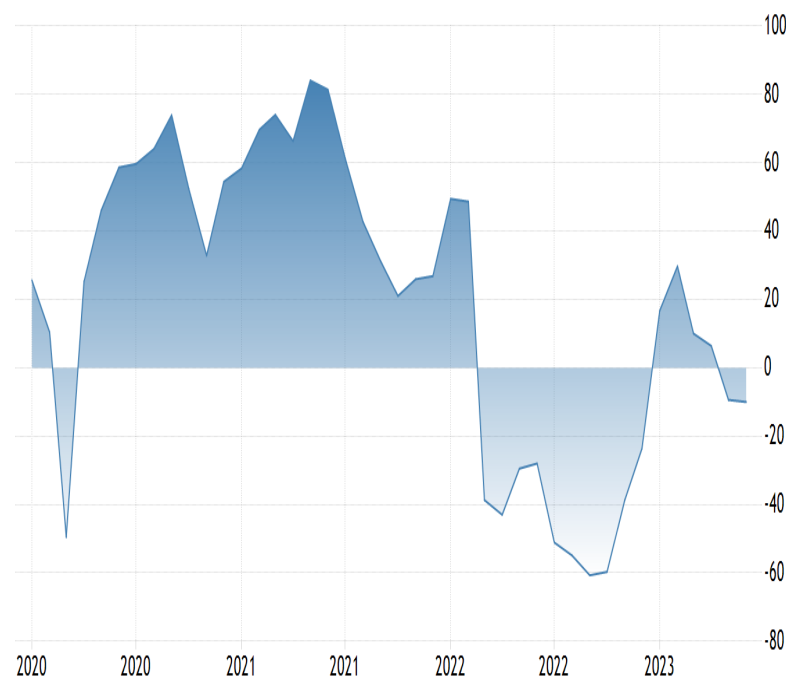
10. ユーロ圏景況感指数は悪化傾向が続く

①5月のユーロ圏業況指数(EU委員会)は+0.19と3ヶ月連続の低下。

②6月のユーロ圏ZEW景況感指数は先行き不透明感から前月比▲0.6ポイント低下して▲10.0。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

11. ユーロ圏消費者信頼感指数は緩やかな回復傾向

欧州委員会が発表した6月のユーロ圏消費者信頼感指数(右図)は前月より+1.3ポイント改善して▲16.1。

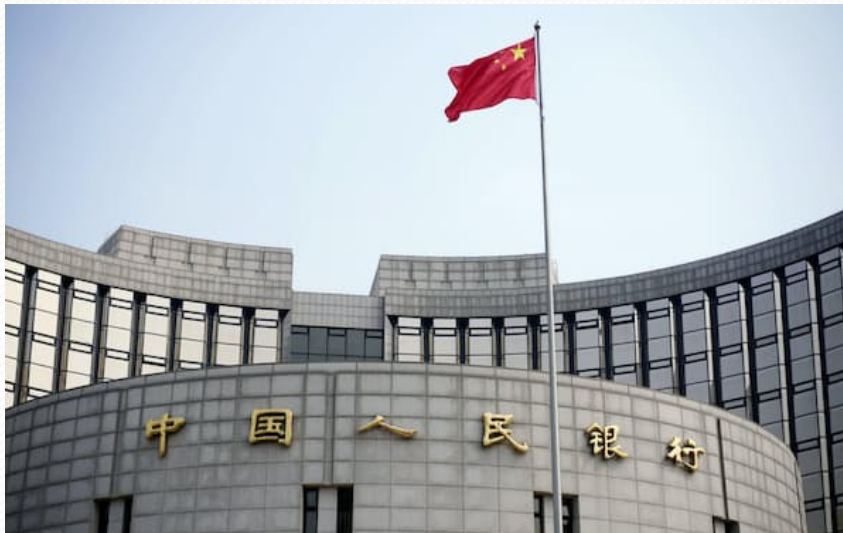


Ⅲ 中国経済

(6月から中国国家统计局のホームページに習近平国家主席の写真が多く掲載されている。新たな習近平個人崇拝のプロパガンダがスタートしたのかも知れない)

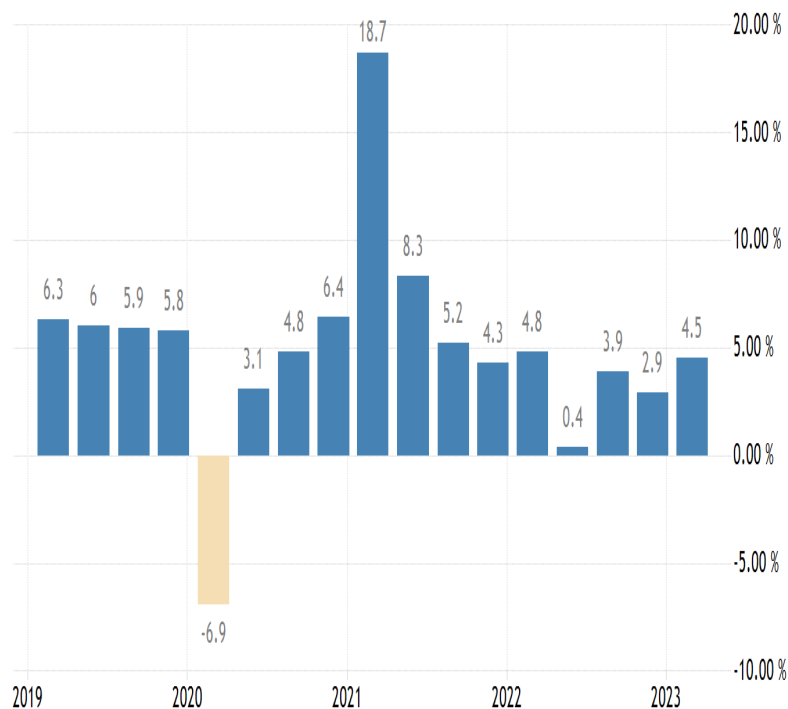
1. 中国人民銀行が10ヶ月ぶりに利下げ

中国人民銀行は6月20日に最優遇貸出金利 (LPR: ローンプライムレート) の1年もの、5年ものを0.1%引き下げ、それぞれ3.55%、4.2%とした。最近の景気減速、需要不振に対する景気テコ入れ策と見られる。



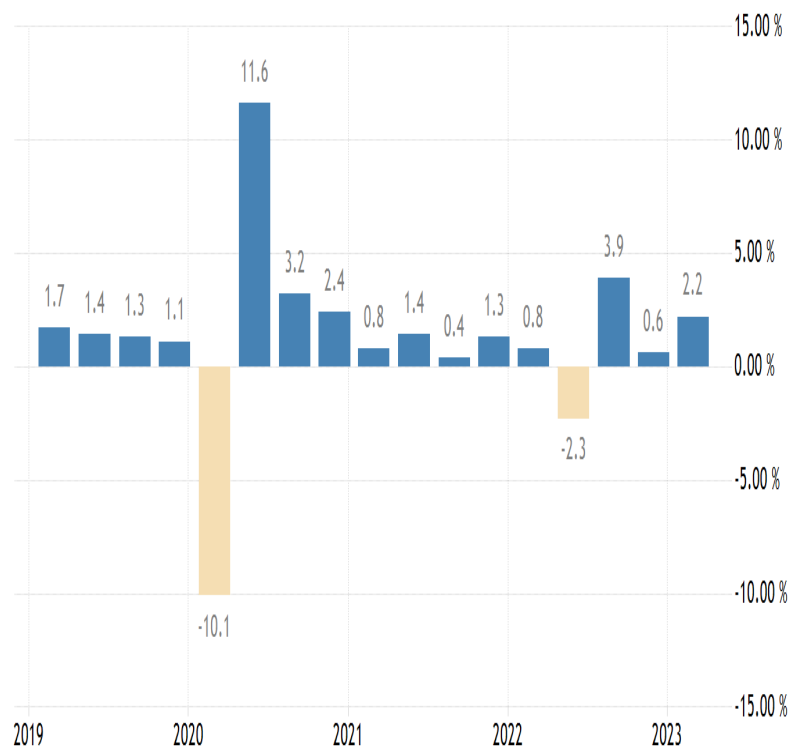
2. 中国の1～3月期GDPはゼロコロナ停止で+4.5%に

①ゼロコロナ政策停止で前年比は+4.5%に加速



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②前期比は+2.2%に加速



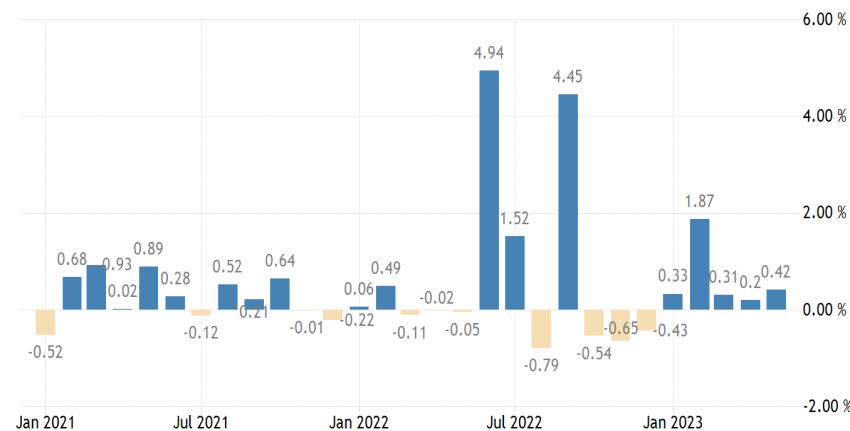
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

3. 中国の消費はゼロコロナ解除で回復続く

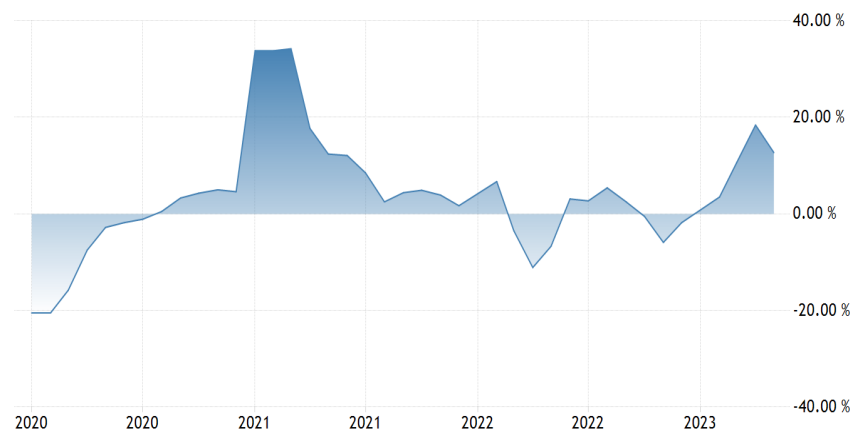
①5月の小売売上高の前年比(右下図)は+12.7%と4ヶ月連続の増加。ゼロコロナ政策解除で3月以降は二桁の伸び。5月の前月比(右上図)は+0.42%。

②商品別の前年比は以下の通り

	3月	4月	5月
通信機材	+1.8% →	+14.6% →	+27.4%
自動車	+11.5% →	+38.0% →	+24.2%
建設資材	▲4.7% →	▲11.2% →	▲14.6%
家具	+3.5% →	+3.4% →	+5.0%
家庭電器	▲1.4% →	+4.7% →	+0.1%
宝飾品	+37.4% →	+44.7% →	+24.4%
化粧品	+9.6% →	+24.3% →	+11.7%
石油製品	+9.2% →	+13.5% →	+4.1%
服飾類	+17.7% →	+32.4% →	+17.6%
事務用品	▲1.9% →	▲4.9% →	▲1.2%
医薬品	+11.7% →	+3.7% →	+7.1%
日用品	+7.7% →	+10.1% →	+9.4%
合計	+10.6% →	+18.4% →	+12.7%



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

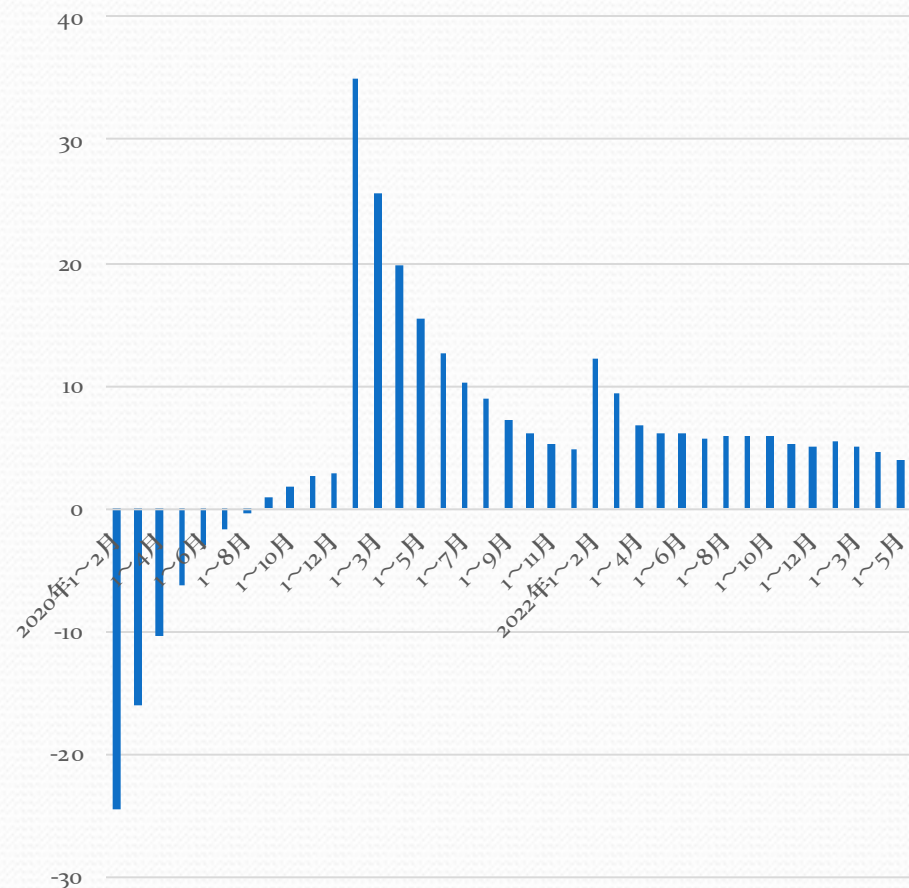
4. 中国の固定資産投資は公共投資主導続く

①1～5月累計の固定資産投資は前年比+4.0%(右図)。

②民間投資は▲0.1%、公共投資の伸びは+8.4%。

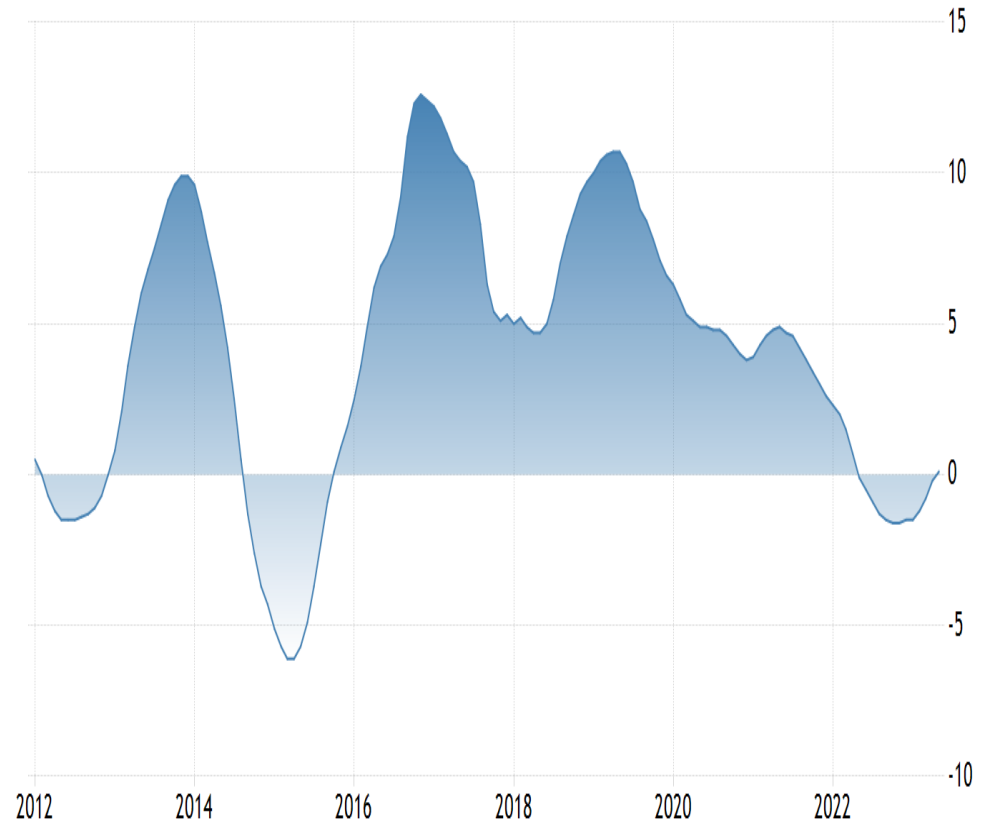
③鉱業は+1.5%。製造業+6.0%、うち食品製造+0.5%、紡績業▲3.6%、化学+15.9%、医薬▲0.6%、非鉄金属+6.5%、金属製品+0.8%、自動車製造+17.9%、鉄道・船舶・航空▲1.3%、電気機械+38.9%、コンピュータ・通信+10.5%、電力・ガス・水道+27.6%、鉄道運輸は+16.4%、道路運輸は+4.4%、水利環境公共施設+4.7%。

中国の固定資産投資(前年比、%)



5. 中国の住宅価格は前月比で24都市が下落

- ①5月の70都市新築住宅価格の前年比は+0.1%と前月の▲0.2%より+0.3%ポイント改善して12ヶ月ぶりのプラス（右図）、前月比は+0.1%。
- ②前月比で上昇した都市が46都市、**下落したのは24都市**、横ばいは0都市。
- ③都市別の住宅価格前年比は
北京+2.8%、大連▲3.6%
長春▲6.0%、上海+1.7%
南京▲0.1%、武漢▲3.5%
広州▲1.4%、深圳▲1.6%
成都+8.7%、西安+0.4%

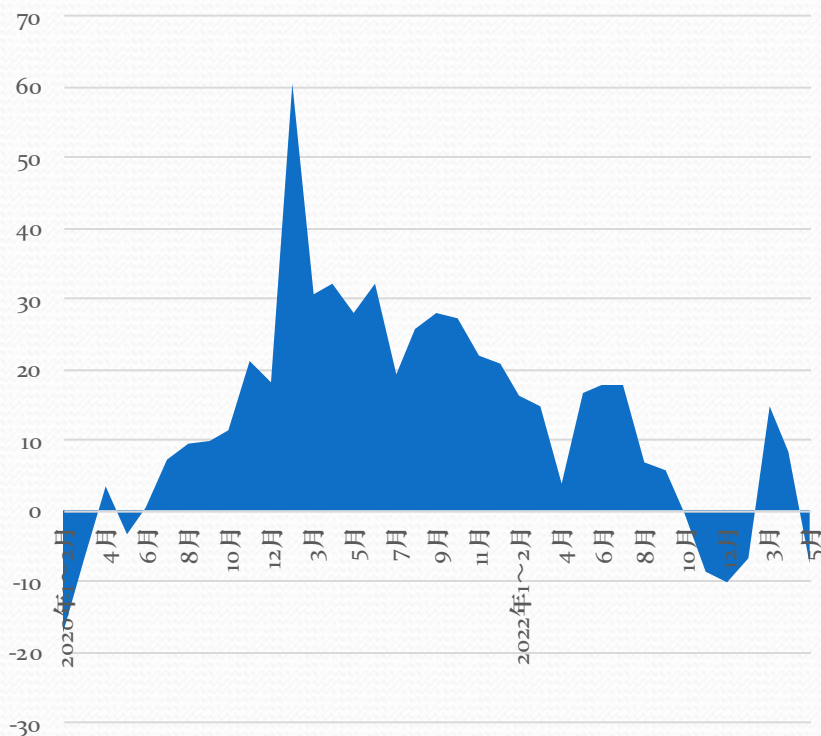


6. 中国の輸出、輸入共にマイナスと不振

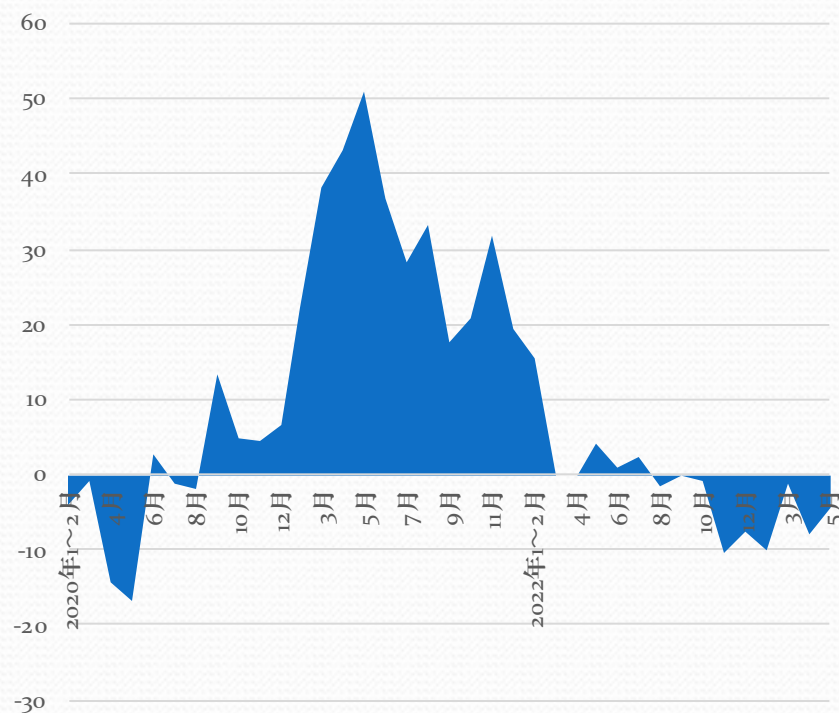
①5月の輸出は前年比▲7.5%。米国向け▲18.2%、EU向け▲26.6%、ロシア向け+114%。

②5月の輸入の伸びは前年比▲4.5%と9ヶ月連続の減少幅。

中国のドル建て輸出(前年比、%)



中国のドル建て輸入(前年比、%)

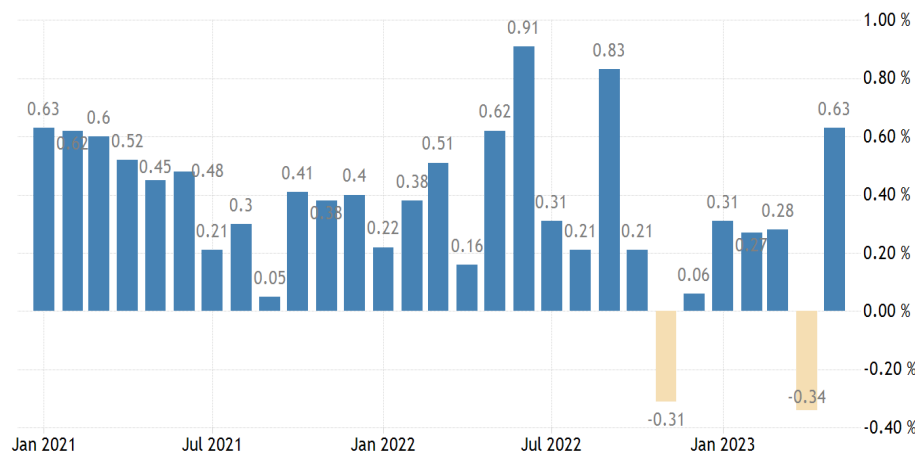


7. 鉱工業生産はゼロコロナ解除だが回復は緩やか

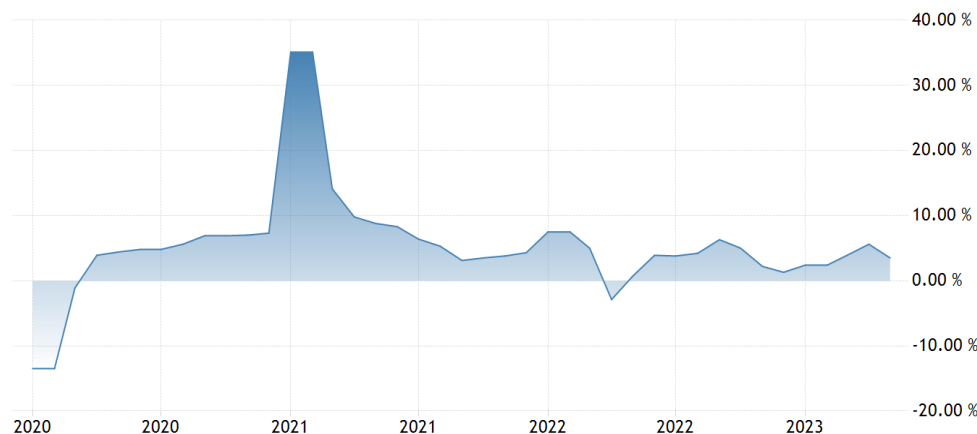
①5月の中国の鉱工業生産の前年比(右下図)は+3.5%の伸び。5月の前月比(右上図)は+0.63%。

②製造業の前年比は+4.1%。電気・ガス・水道は+4.8%、鉱業は▲1.2%。

③食品製造は前年比+0.1%、紡績▲1.8%、化学+3.9%、医薬製造▲4.4%、非金属鉱物製品▲2.6%、鉄鋼+3.1%、非鉄金属+7.1%、金属製品▲0.1%、自動車+23.8%、鉄道・船舶・航空機+7.6%、電気機械+15.4%、コンピュータ・通信0.0%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

8. 中国の失業率は政府目標の5.5%を下回る

5月の全国都市失業率（農民工は統計に含まれず）は5.2%と前月と変わらず



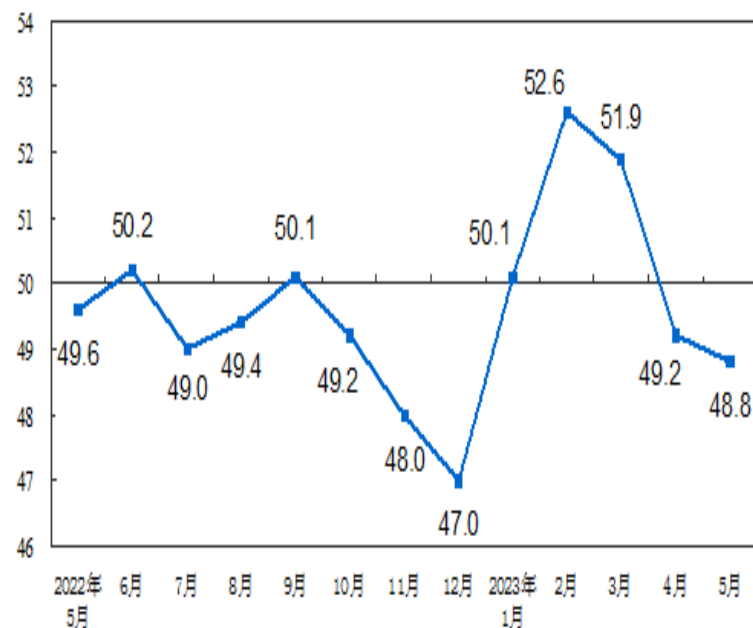
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

9. 中国製造業PMI指数は50を下回るなど不振

①5月製造業PMIは48.8と前月より▲0.4ポイント低下で2ヶ月連続で50を割る。

图1 制造业PMI指数（经季节调整）

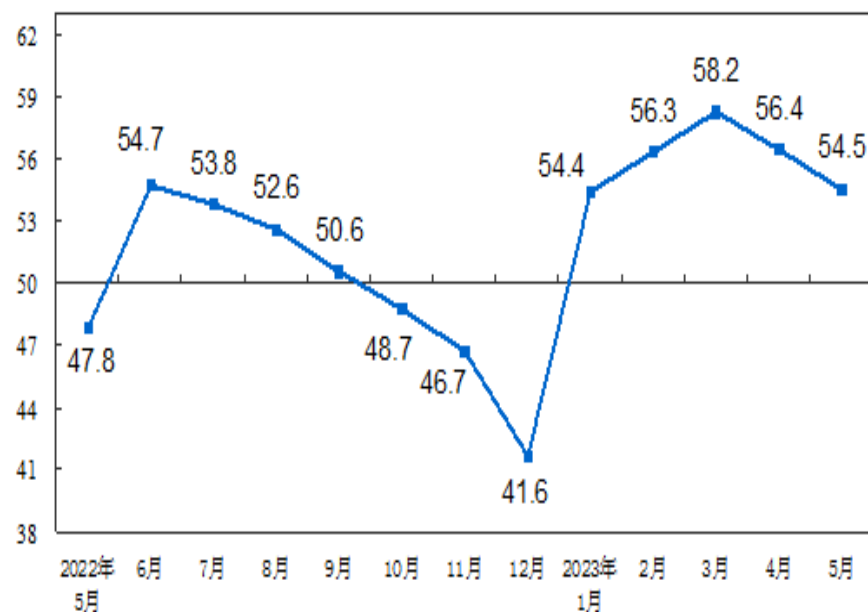
(%) 50%=与上月比较无变化



②5月非製造業PMIは54.5と前月より▲1.9ポイントの低下。

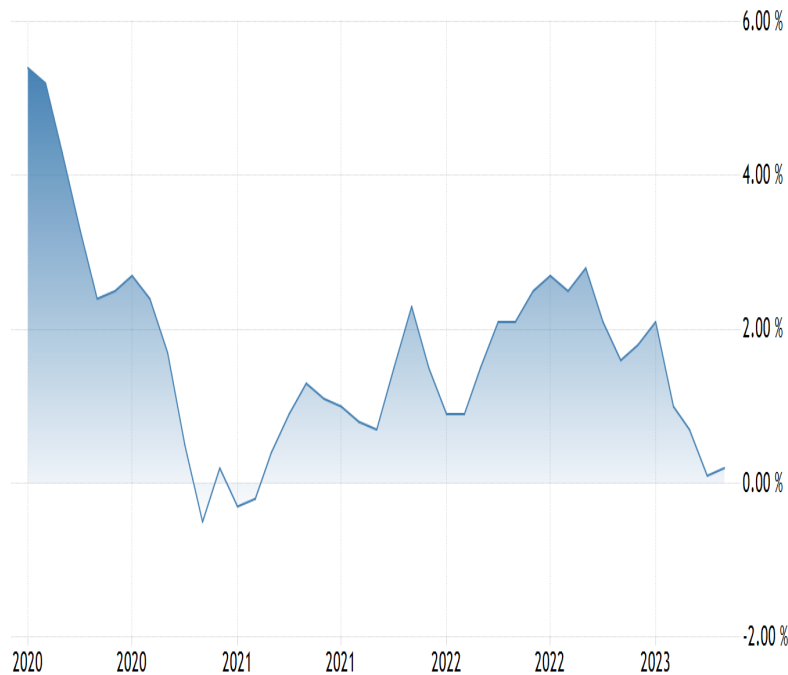
图2 非制造业商务活动指数（经季节调整）

(%) 50%=与上月比较无变化



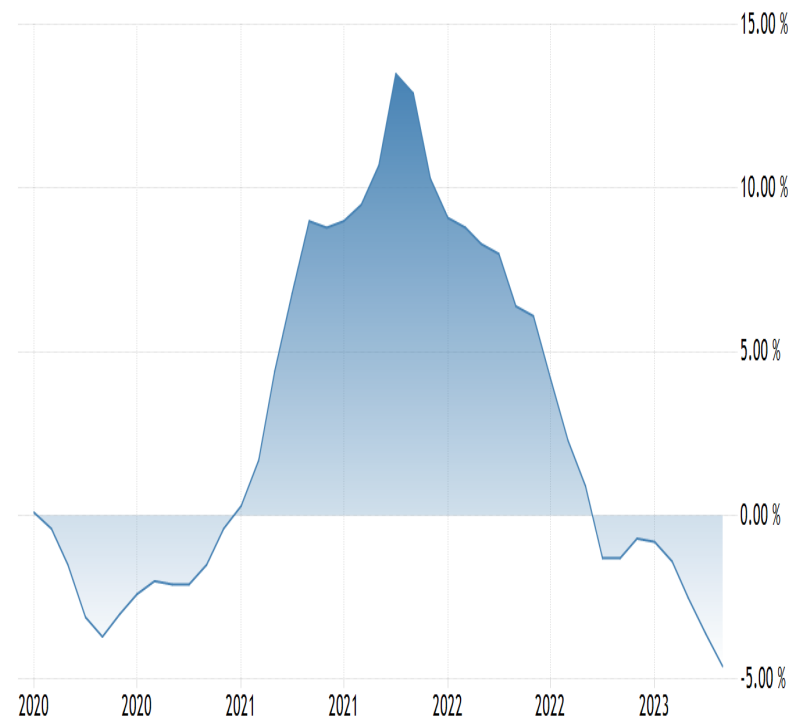
10. 中国の物価は弱くデフレ突入の恐れ

①5月の消費者物価の前年比(左図)は+0.2%と前月より+0.1ポイント高まる。前月比は▲0.2%の下落。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②5月の生産者物価の前年比(右図)は▲4.6%と前月より▲1.0ポイント伸びが低下。前月比は▲0.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 日銀は現状維持を決定、YCCの変更否定せず

①日銀は6月15～16日政策決定会合を開き、現状維持を決めた。

(1) 短期金利を▲0.1%のマイナス金利を適用する。長期金利がゼロ%で推移するよう、上限を設けず長期国債を買い入れる→イールドカーブ・コントロール(YCC)は変わらず。

(2) 長期金利の変動幅を「±0.5%程度」とし、0.5%での指値オペを実施、金融市場調節方針と整合的なイールドカーブの形成を促すため、大規模な国債買入れを継続する

(3) 長期国債以外の資産買入方針変わらず

●ETFとJ-REITの買入れはそれぞれ年間12兆円、1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて、買入れを行う。

●CP等は2兆円の残高を維持、社債等については感染症拡大前と同程度のペースで買入れを行い、買入れ残高を感染症拡大前の水準(約3兆円)へと徐々に戻していく。

②声明文によれば、景気は緩やかに回復、インフレは高騰した輸入物価の価格転嫁の影響が減退していくと予想。マクロ需給ギャップの改善から期待インフレや賃金も上昇していくと楽観的に見ている。

③植田総裁は記者会見でYCCについては「決定会合の間に新しいデータや情報が入ってくるので、決定がある程度のサプライズが発生するのはやむを得ない」と発言して、YCCの変更の可能性を否定はしなかった。



2. 1～3月期のGDPは内需増加で年率2.7%の伸び

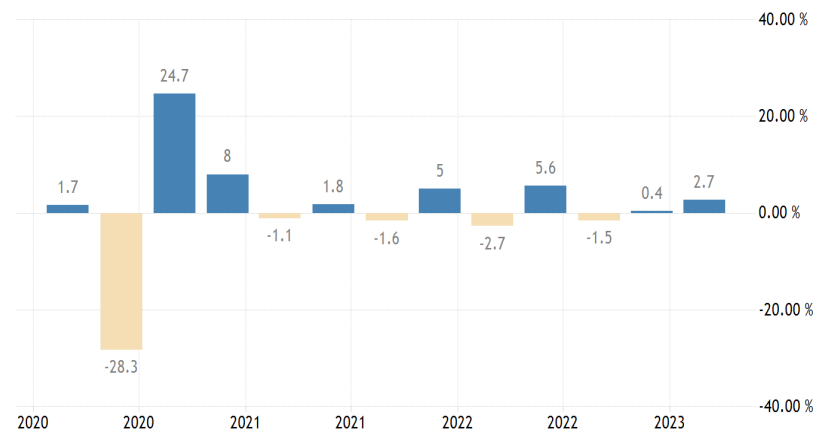
①1～3月期の実質GDP(2次速報値)は前期比+0.7%、前期比年率+2.7%(右上図)となった。内需の寄与度は+1.0%、外需▲0.3%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+1.9%と前期より+1.5ポイント伸びが高まる。

②名目GDPは前期比+2.0%、前期比年率+8.3%、前年比は+3.9%。GDPデフレーターは前期比+1.3%、前年比は+2.0%。

③需要項目別で実質民間最終消費支出は前期比+0.5%(年率+2.1%)、寄与度は+0.3%。民間企業設備は前期比+1.4%(年率+5.6%)、寄与度は+0.2%。民間住宅は前期比▲0.1%(年率▲0.3%)、寄与度は▲0.0%。民間在庫変動の寄与度+0.4%。

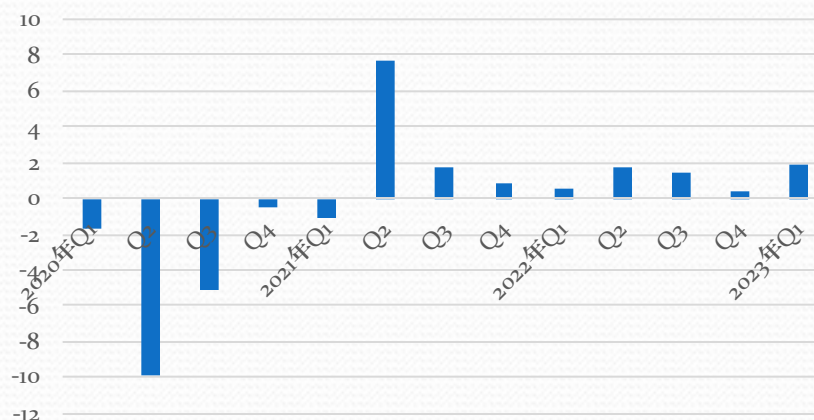
④政府最終消費は前期比+0.1%(年率+0.5%)、公的固定資本形成は前期比+1.5%(年率+6.3%)で、政府支出合計の寄与度は+0.1%。

⑤輸出は前期比▲4.2%(年率▲15.9%)、寄与度は▲0.9%、輸入は前期比▲2.3%(年率▲8.9%)、寄与度は+0.6%。



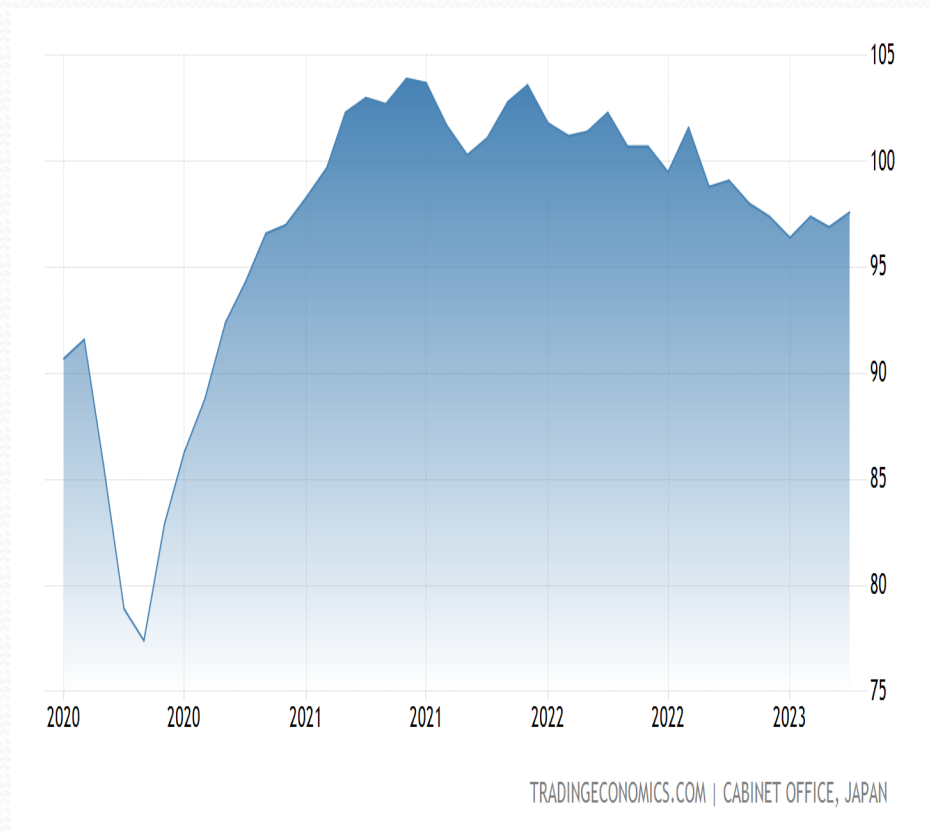
TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

実質GDP(前年同期比%)



3. 景気動向指数(先行)は底入れの兆し

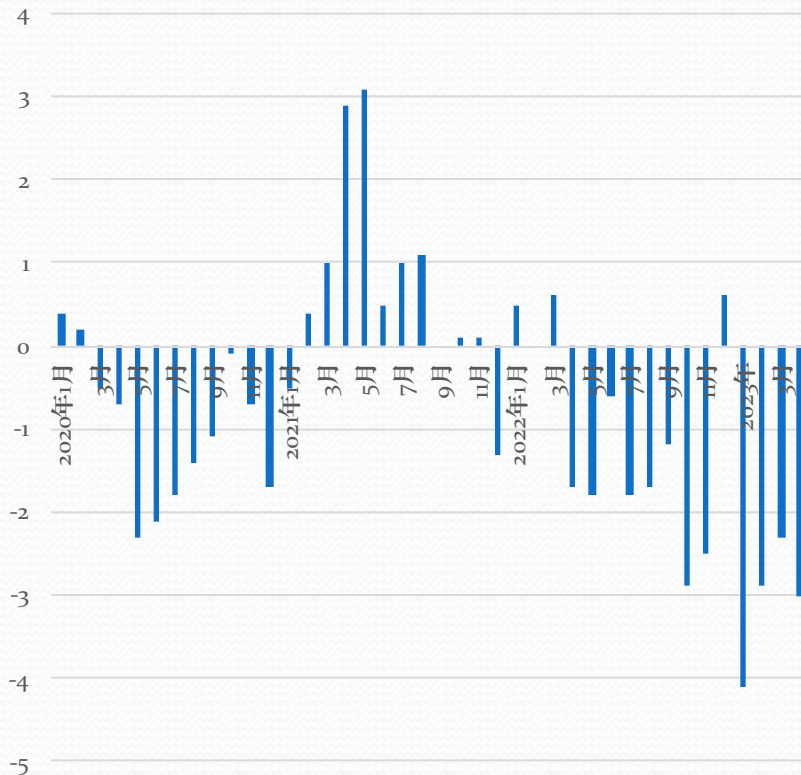
- ①4月の先行指数(右図)は97.6で、前月比+0.7ポイントで2ヶ月ぶりの上昇。
- ②一致指数は99.4で前月比+0.2ポイントで3ヶ月連続の上昇。
- ③遅行指数は101.2で前月比+1.0ポイントと2ヶ月連続の上昇。
- ④内閣府の基調判断(一致指数)は「足踏みを示している」に据え置き。



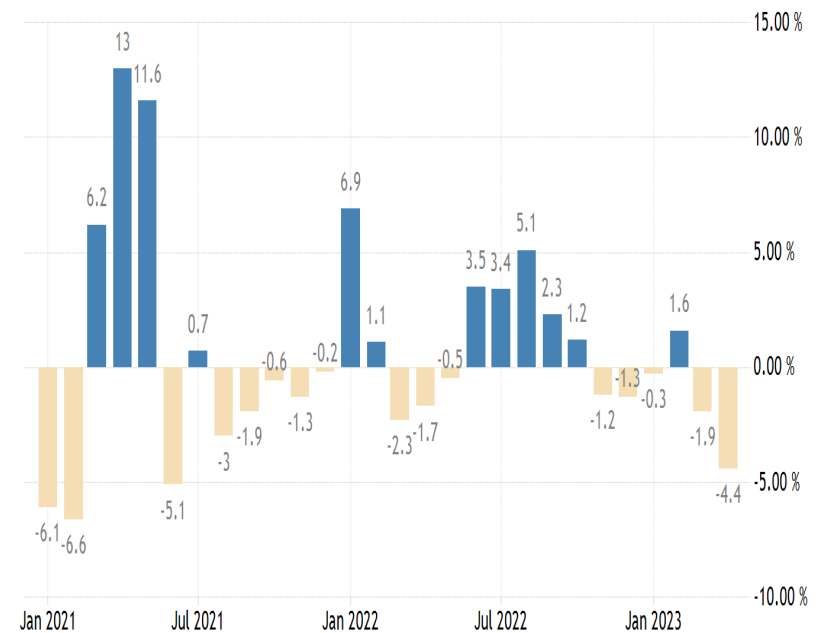
4. インフレ加速で実質賃金、消費共にマイナス

(1) 4月の現金給与総額の前年比+1.0%、所定内給与は+1.1%、所定外給与▲0.3%、特別給与+0.2%。実質賃金の伸び(下図) ▲3.0%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



(2) 4月の家計消費は物価上昇から前年比で名目▲0.5%、実質は▲4.4%(下図)。費目別実質伸び率は教養娯楽+4.6%、光熱・水道+1.6%、保険医療+2.5%。教育▲19.5%、住居▲15.3%、被服及び履物▲9.5%、家具・家事用品▲6.9%。



5. 機械受注(船舶・電力除く民需)は足踏みが続く

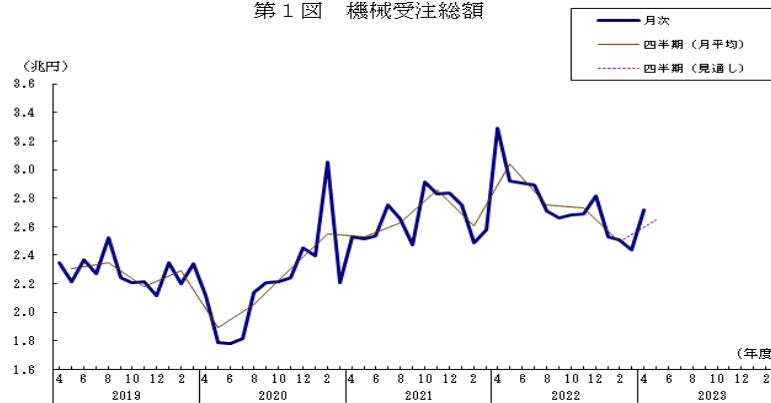
①民間設備投資の先行指標である4月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は+5.5%の増加、前年比は▲5.9%の減少。

②製造業受注は前月比▲3.0%、前年比は▲15.7%。前月比で17業種中、造船繊維工業、「その他輸送機械」など10業種が増加。造船業、業務用機械など7業種が減少。

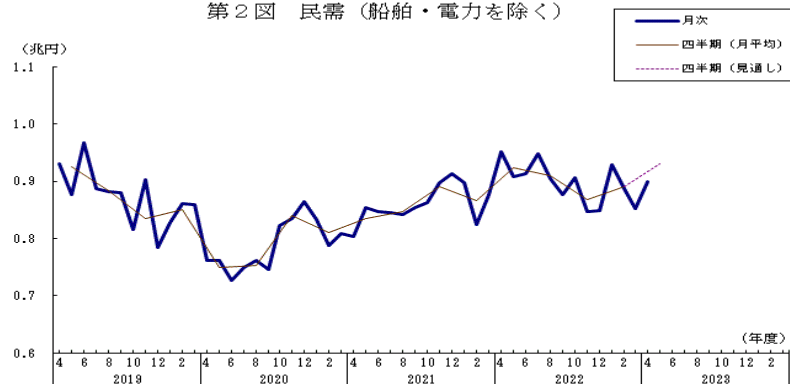
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比+11.0%、前年比+4.1%。前月比で12業種中、増加したのは金融業・保険業、鉱業・採石業・砂利採取業など6業種で、通信業、建設業など6業種が減少。

④内閣府の基調判断は「足踏みがみられる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

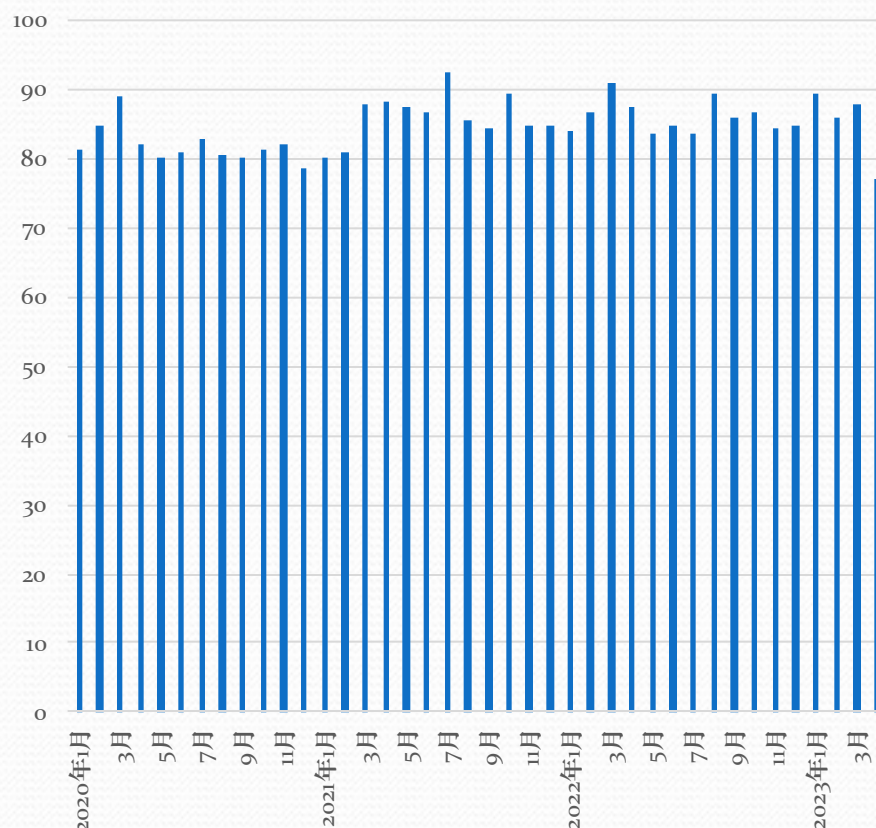
1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7～9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「2023年4～6月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2023年3月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

6. 住宅着工戸数(季調済)は大幅減少

①4月の住宅着工戸数は67,250戸で前年比は▲11.9%。季調済年率でい77.1万戸(右図)、前月比は▲12.1%と大きく減少。

②持家は18,597戸、前年比は▲11.6%と17ヶ月連続の減少。貸家は28,685戸、前年比は▲2.8%と26ヶ月ぶりの減少。分譲住宅は19,701戸、前年比は▲21.8%で3ヶ月連続の減少。分譲マンションは7,233戸、前年比は▲43.0%で5ヶ月ぶりの減少。分譲一戸建て住宅は12,362戸、前年比は▲0.8%で6ヶ月連続の減少。

日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)

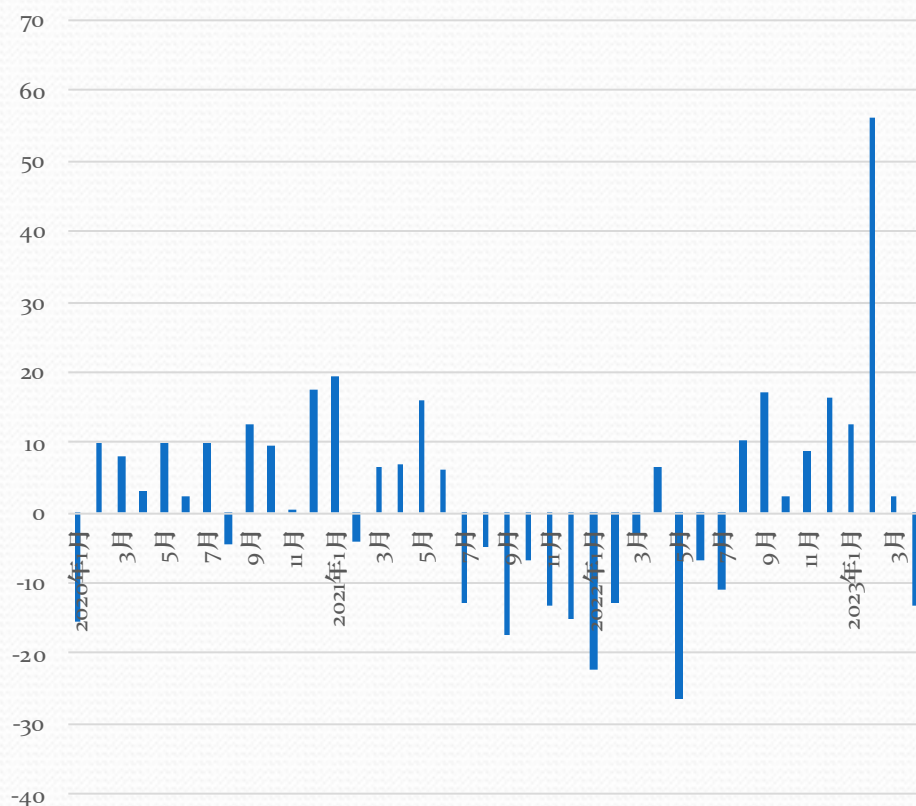


7. 公共工事受注は9ヶ月ぶりの減少

①4月の公共工事受注は前年比▲13.1%と9ヶ月ぶりの減少。(注:推計方法の変更により、データは21年3月までと21年4月以降とは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は▲18.5%、建築工事・建築設備工事+4.2%、機械装置等工事▲3.7%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



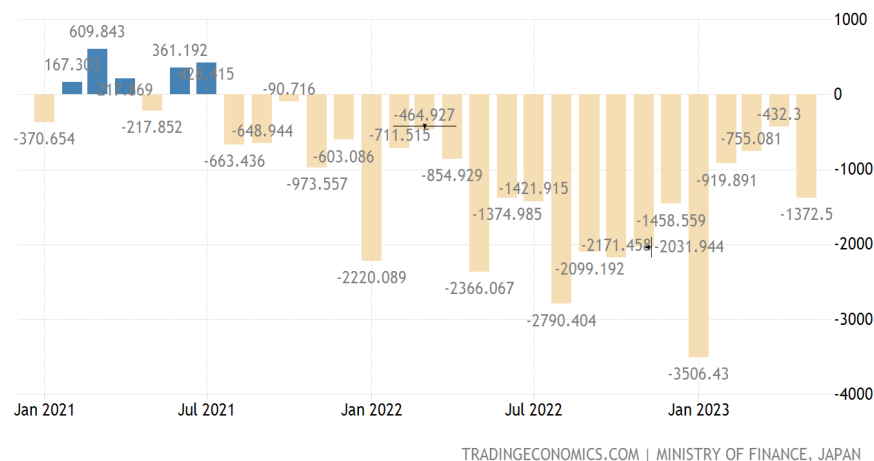
8. 貿易収支は輸入減少で赤字が縮小

①5月の貿易収支は前年比+9,935億円改善して▲1兆3,725億円(右上図)の赤字に縮小。輸出は前年比+0.6%、金額は7兆2,926億円。数量(右下図)前年比は▲6.4%、価格前年比+7.5%。輸入は前年比▲9.9%、金額は8兆6,651億円。数量の前年比▲5.2%、価格の前年比▲5.0%。

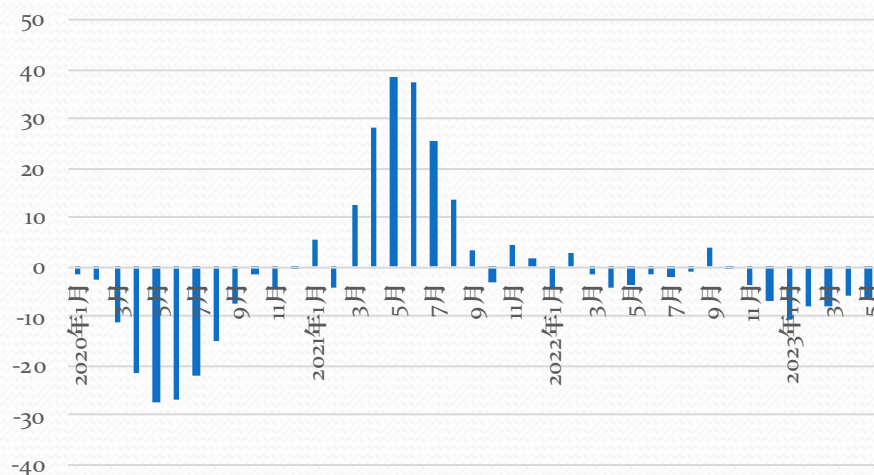
②地域別輸出でアジア向けは▲8.1%(うち中国▲3.4%、香港▲10.2%、台湾▲19.5%、韓国▲11.2%、シンガポール▲6.8%、タイ▲9.4%、インドネシア+8.1%、インド+23.5%)、米国+9.4%、西欧+23.0%、中東+37.0%、ロシア+34.8%。

④商品別輸出は自動車+66.3%、航空機類+102.1%、船舶▲37.7%、鉄鋼▲10.2%、非鉄金属▲8.4%、半導体等製造装置▲20.2%、プラスチック▲16.8%、半導体等電子部品▲12.1%。

⑤商品別輸入は鉱物性燃料▲27.2%(原油及び粗油▲21.7%、石油製品▲21.6%、LNG▲31.6%、石炭▲32.1%)、有機化合物▲20.1%、医薬品▲11.9%、自動車+80.0%、



日本の輸出数量の伸び(前年比、%)



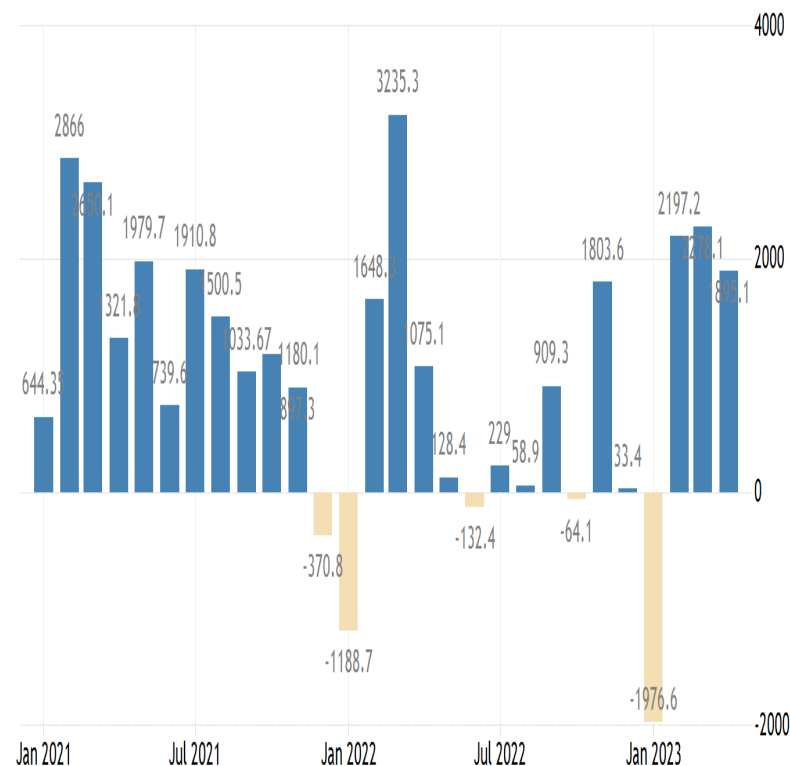
9. 貿易サービス、所得収支の改善で経常黒字が拡大

①4月の経常収支(右図)は前年比+8,199億円黒字幅が拡大して、+1兆8,951億円の黒字。

②4月の貿易収支は前年比+5,710億円赤字幅が縮小して▲1,131億円の赤字。輸出は前年比+2.6%の8兆2,234億円、輸入は前年比▲4.1%の8兆3,366億円。

③サービス収支は+3,563億円赤字幅が縮小して▲6,465億円の赤字。

④第一次所得収支は証券投資収益の黒字幅拡大により、+921億円黒字幅が拡大して+3兆663億円の黒字。第二次所得収支は▲1,995億円赤字幅が拡大して▲4,116億円の赤字。



10. 日本の雇用状況は横ばいが続く

①4月の就業者数は原系列で6,741万人、前年比+14万人。季調済(右上図)は6,744万人で前月比+13万人の増加。原系列で雇用者数は6,057万人で前年比+7万人の増加。正規は3,664万人で前年比+13万人、非正規は2,064万人で前年比▲6万人。自営業主・家族従業者は652万人で前年比+9万人。

②産業別就業者の前年比では製造業+38万人、生活関連サービス業・娯楽業+10万人、情報通信業+10万人など増加。建設業▲10万人、教育・学習支援業▲19万人、医療福祉▲29万人などが製造業+38万人。

③完全失業者数190万人で前年比+2万人。完全失業率は2.6%で前月より▲0.2ポイント低下。

④有効求人倍率は1.32倍で前月と変わらず(右下図)。



11. 鉱工業生産は前年比マイナスが続く

①4月の鉱工業生産指数(確報、基準年次が2015年から2020年に変更)は105.5で、前月比(右上図)は+0.7%と3ヶ月連続の上昇、前年比は▲0.7%と6ヶ月連続の低下(右下図)。

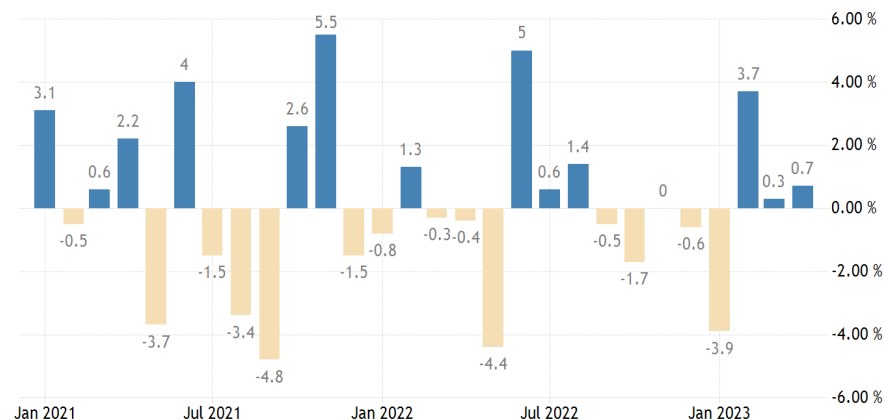
②業種別前月比は汎用・業務用機械工業+7.8%、電気・情報通信機械工業+4.7%、無機・有機化学工業+9.0%などが上昇。生産用機械工業▲6.3%、食料品・たばこ工業▲1.1%などが低下。

③業種別前年比で電子部品・デバイス工業▲12.5%、窯業・土石製品工業▲7.1%、生産用機械工業▲5.1%、鉄鋼・非鉄金属工業▲4.9%などが低下。自動車工業+17.4%、輸送機械工業(除く自動車工業)+9.4%、電気・情報通信機械工業+5.3%などが上昇。

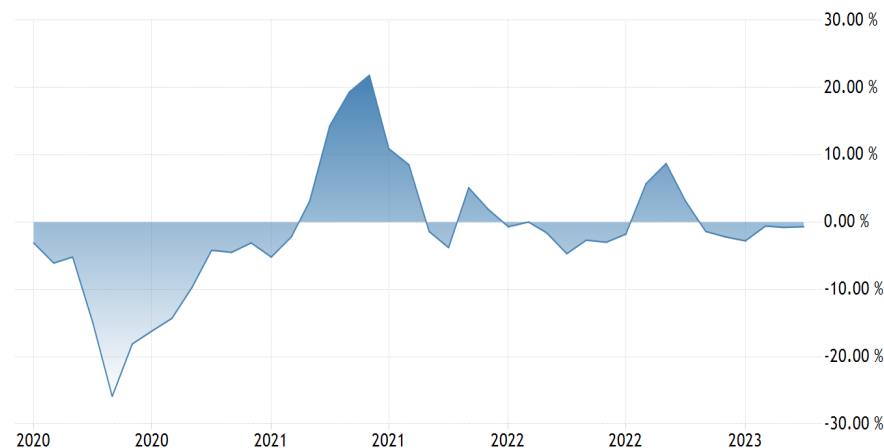
④5月の製造工業生産予測指数は前月比+1.9%の上昇、6月は+1.2%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+1.1%、前年比▲2.9%

⑥基調判断は「生産は緩やかな持ち直しの動き」に据え置き。



TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)



TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)

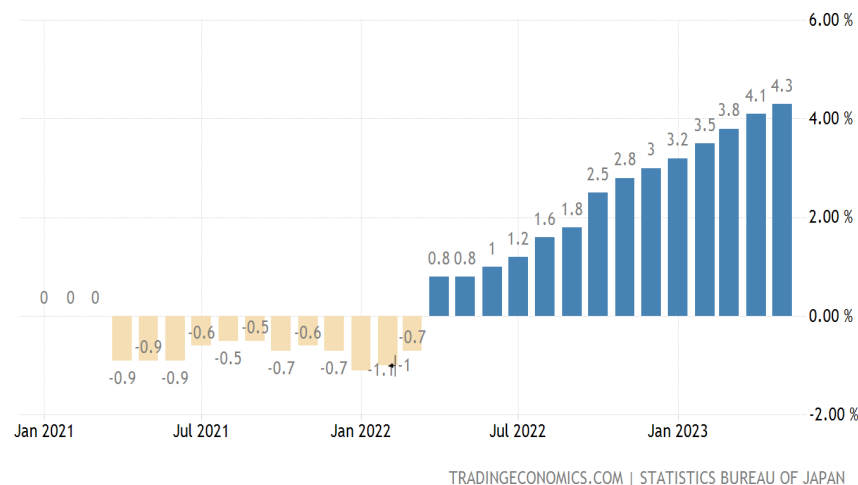
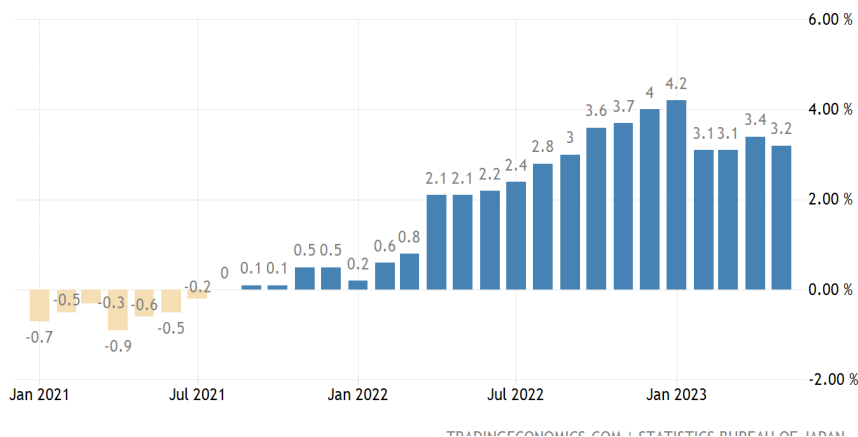
12. 消費者物価上昇は食料、非エネルギーが主導

①5月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+3.2%と前月を▲0.2ポイント下回る。前月比は横ばい。

②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+4.3%で前月より+0.2ポイント伸びが高まる。前月比は+0.3%

③消費者物価総合の前年比は+3.2%と前月より▲0.3ポイント伸びが低下。前月比は横ばい。エネルギーの前年比は政府の電気、ガス代負担軽減策で押し下げられて▲8.2%、寄与度は▲0.69%と前月との寄与度差は▲0.32%。食料の前年比は+8.6%で寄与度は+2.29%。

④項目別前年比で上昇は火災・地震保険料+13.3%、宿泊料+9.2%、鶏卵+35.6%、豚肉+10.3%、ルームエアコン+15.7%、炭酸飲料+17.1%、外食+6.4%、携帯電話機+20.6%。電気代▲17.1%。



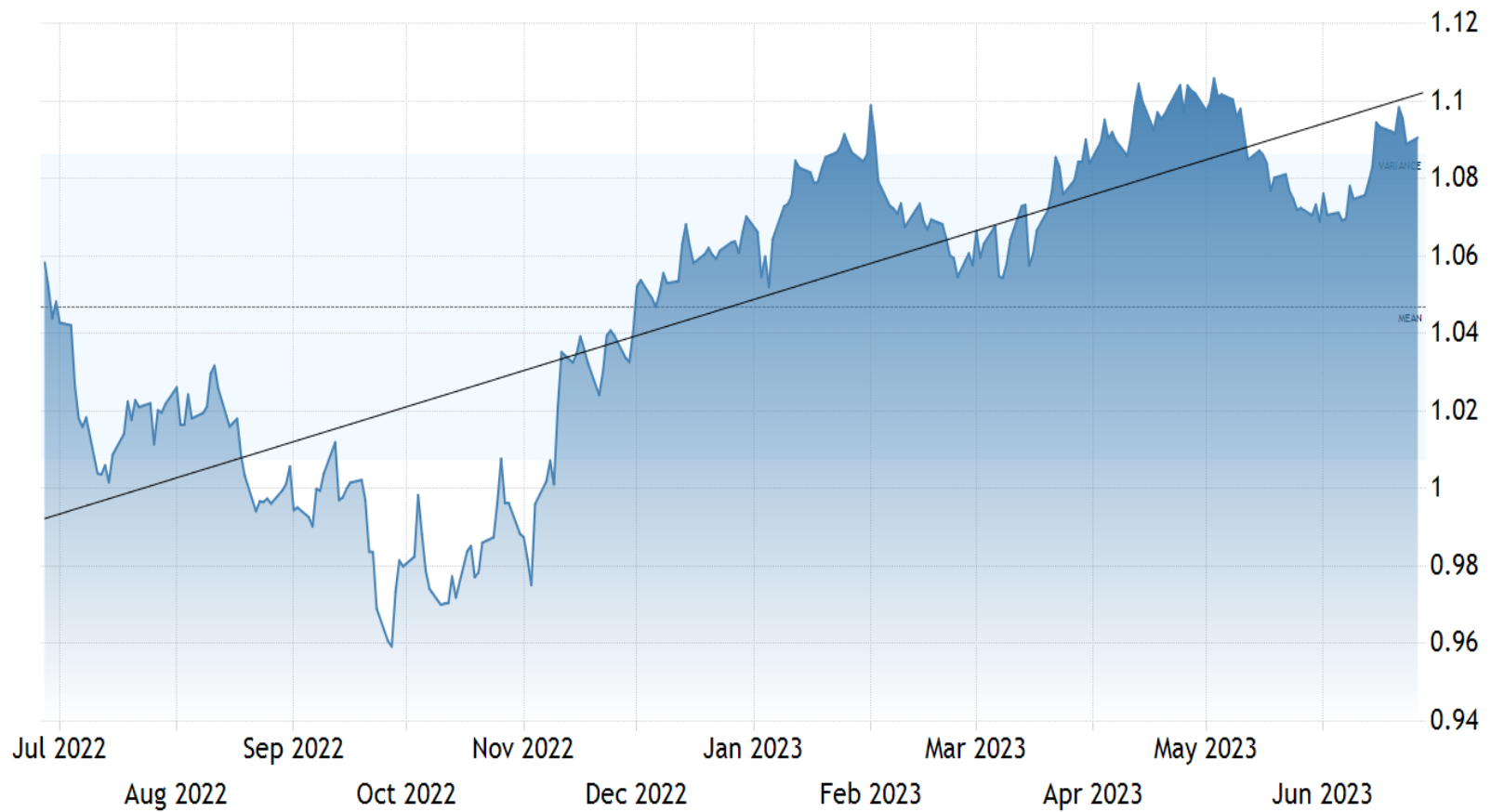


V マーケット動向

1. 日銀金融緩和維持で円が売られる



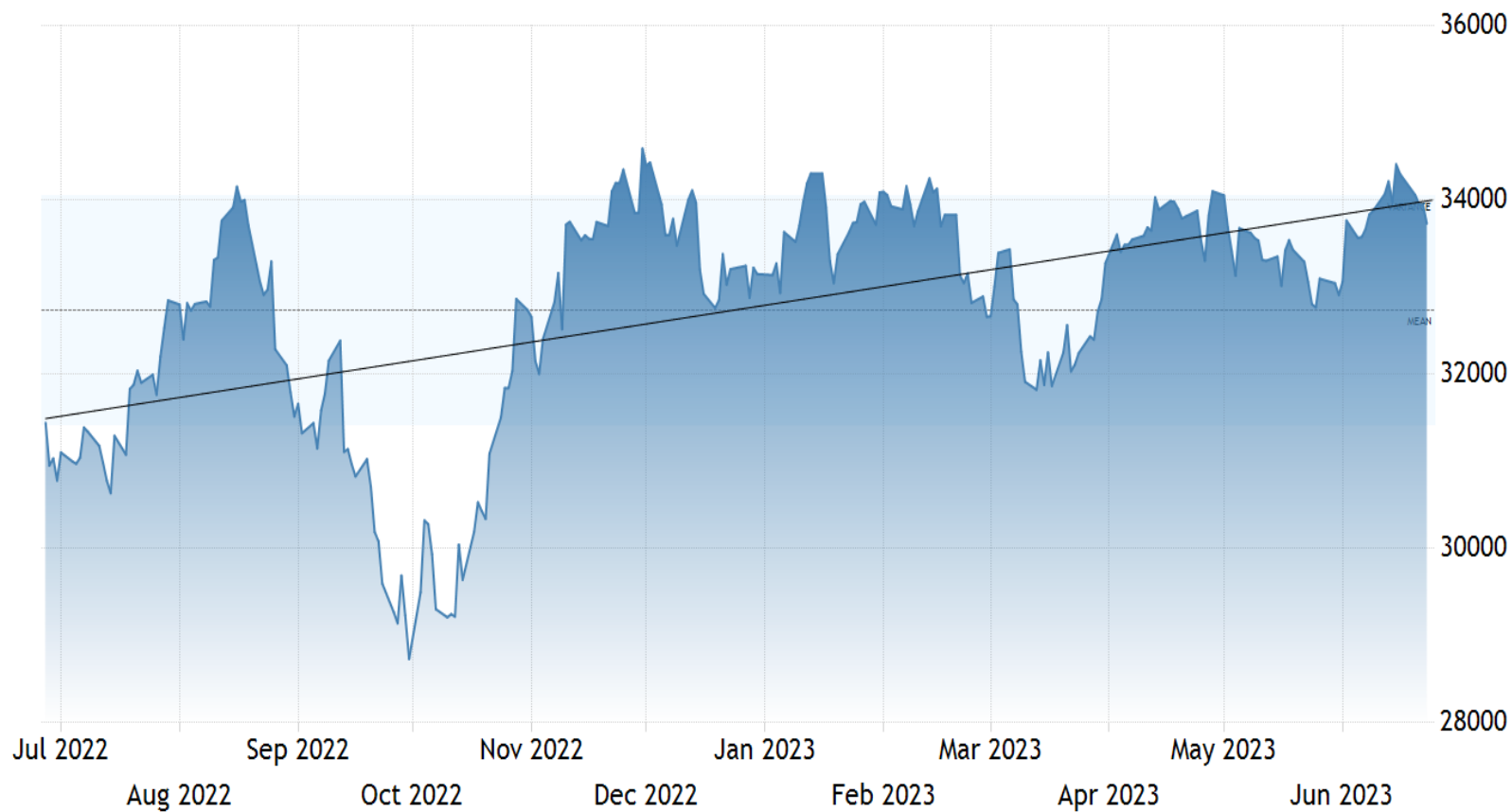
2. ユーロはECBの金融引き締め継続で堅調



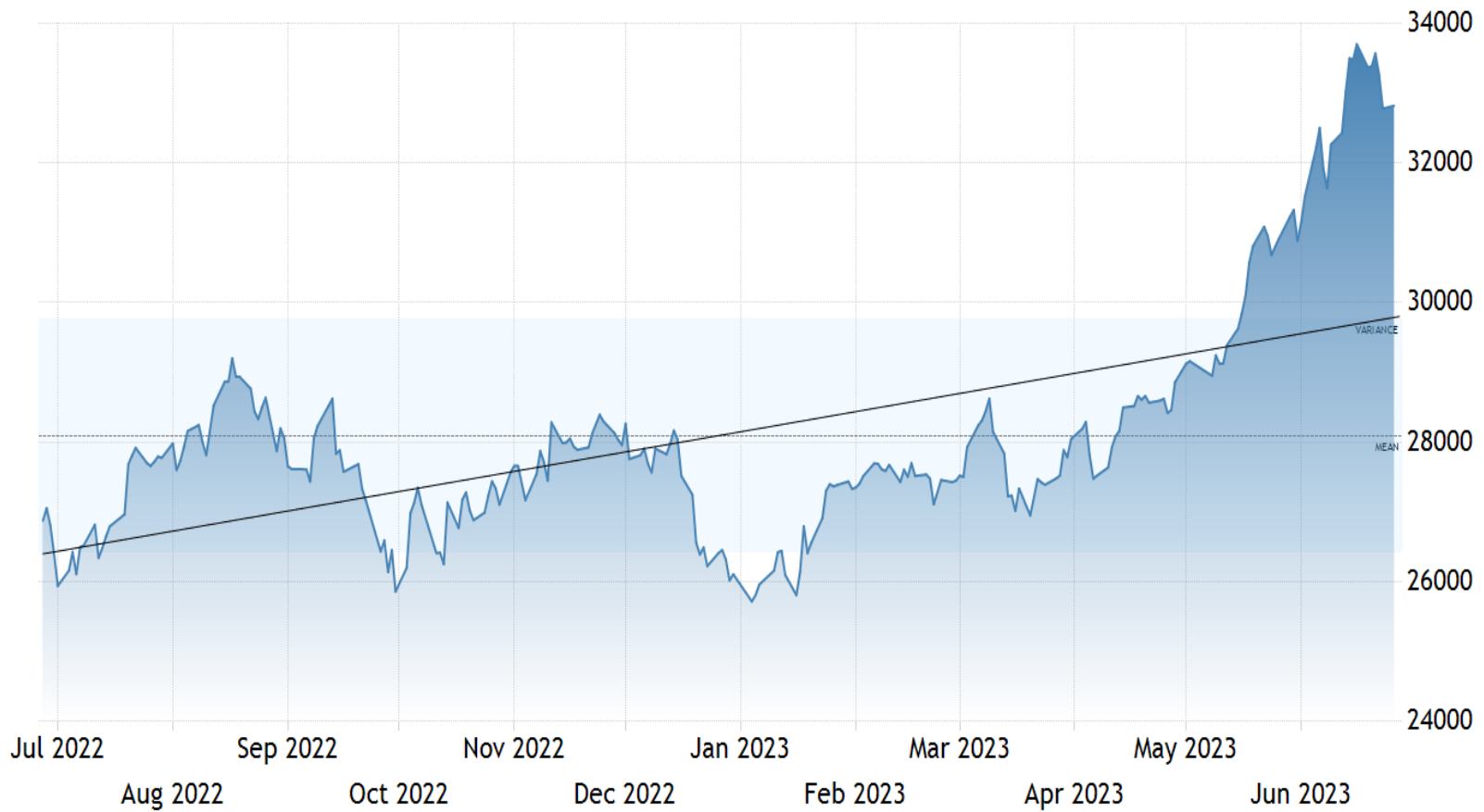
3. 人民元は金融緩和で下落方向に動く



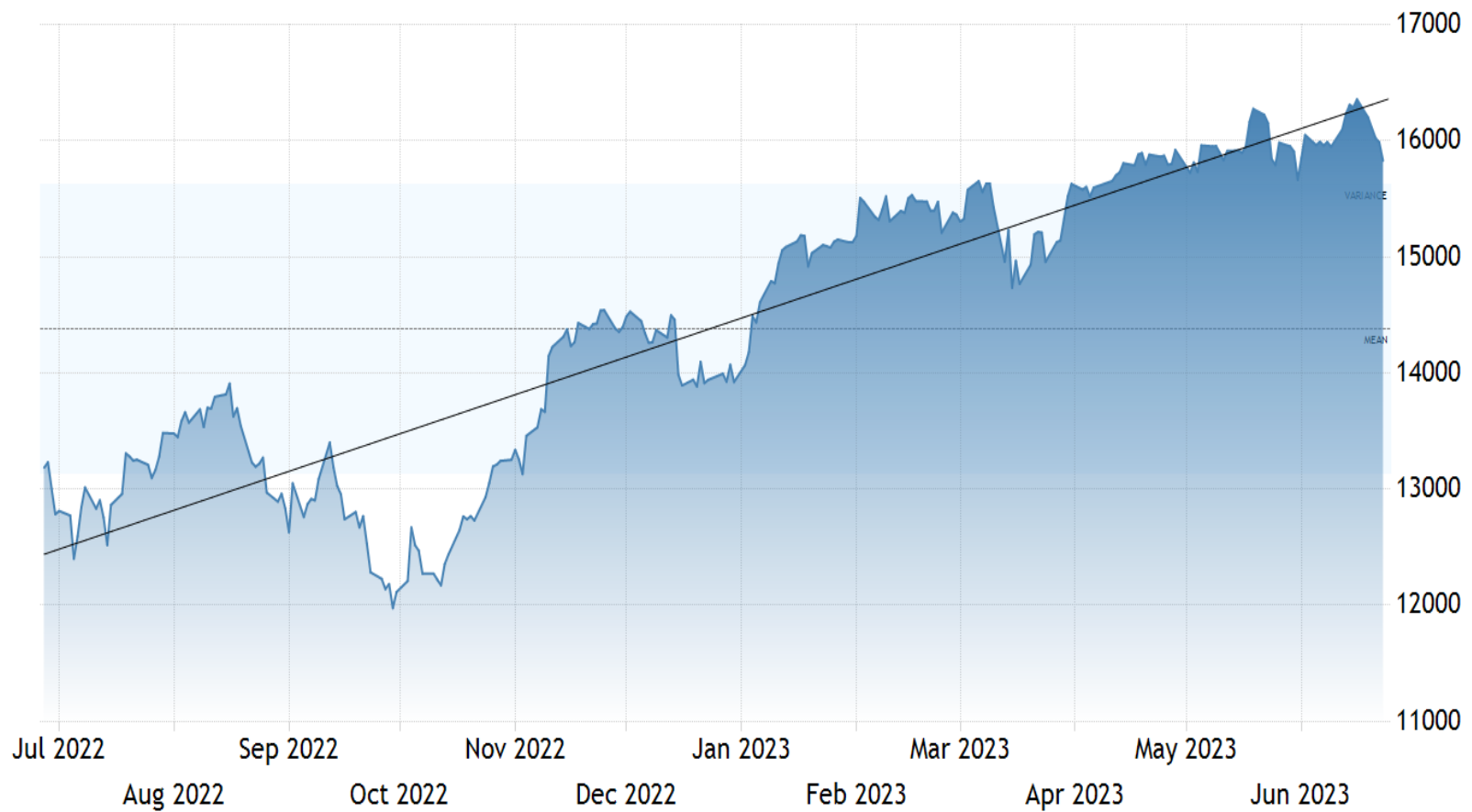
4. NYダウは引き続き高値圏での推移



5. 日経平均はバブル崩壊以降の高値を更新



6. 独株価 (DAX) はECB利上げで頭打ちか



7. 上海株価は頭打ちから下げに転じる



8. 米長期金利は物価高止まりで3.5%を上回る



9. 日本の長期金利の変動は0.5%以下に抑制



10. 独長期金利は2.5%近辺で横ばいの動き



11. 中国の長期金利は低下傾向



12. 原油価格 (WTI) は下降トレンドが持続



13. 金価格は金融引き締め継続で頭打ち





完